⑥丸保山古墳

所　　在　　地　：　堺区北丸保園
規　　模　：　墳丘長 87m の帆立貝形前方後円墳
築造年代　：　5 世紀中頃
指定面積　：　6,917.85 ㎡
公有化面積　：　6,917.85 ㎡
調査と保存の経過　：　昭和 47 年　史跡指定
　　昭和 43 年　公有化完了
史跡の現状　：

【古墳の状況】　立地・規模・残存状況・管理状況

丸保山古墳は、仁徳天皇陵古墳（大山古墳）の北西側、信太山台地の西端に位置し、同古墳に付随する古墳の可能性を有する。墳丘は、全長 87m、後円部径 60m、後円部高 10.3m、前方部幅 40mの前方部を南に向けた帆立貝形前方後円墳である。同古墳の南西には菰山塚古墳が存在する。埴輪の特徴から、5 世紀中頃の築造である。史跡指定地の後円部及び東側の管理用通路は宮内庁が陵墓として管理している。周濠は、かつて溜池として利用されていたが、現在は用水などの流入はない。また、周濠南西隅に位置する祠が、濠の外肩と接している。

【古墳周辺の整備状況】　整備利用状況・周辺の景観や環境等

古墳の周囲には道路が通り、史跡指定地内はフェンスで囲まれている。更に、宮内庁管理用地についてはコンクリート柱に鉄線張の柵で囲まれている。古墳の南東隅に管理用の通路があり、入り口には標柱がある。

【課題】

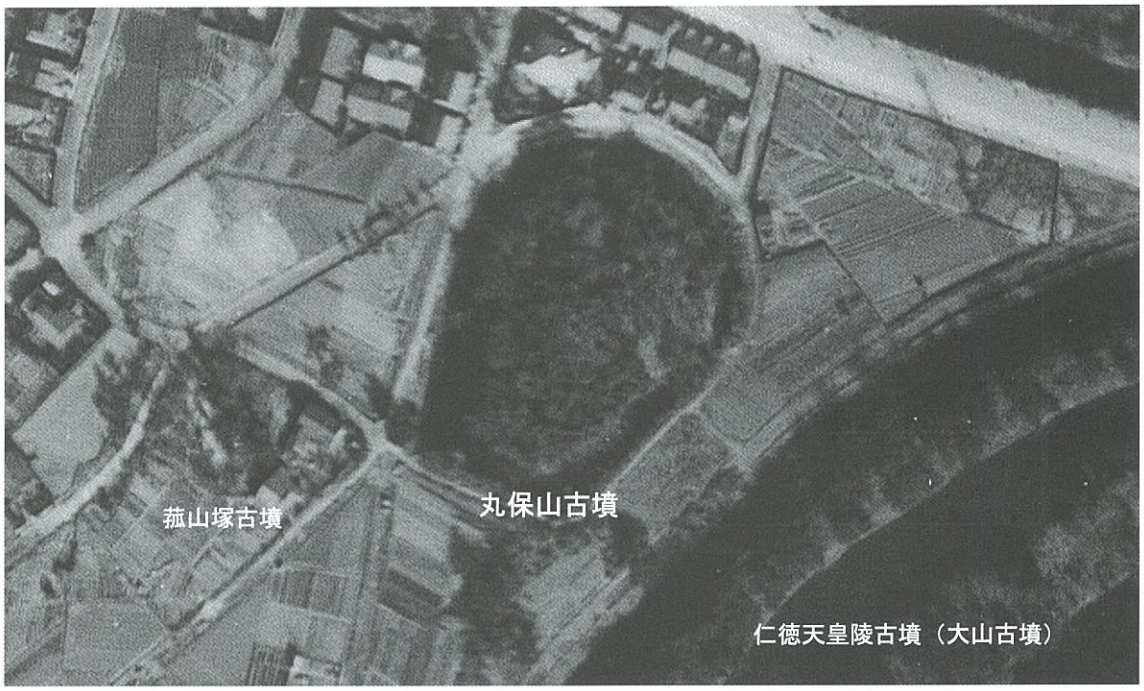
周濠は、水面にはヨシなどの植物や藻類などが繁茂している。更に、排水の施設がなく降雨量によって水位の上下が著しいため、墳丘裾及び周濠の外肩が浸食されている。墳丘の植生は、前方部上にアキニレやクロマツなどがまばらにあり、宮内庁が管理する後円部にはアベマキやナナミノキなどが自生する。また、堤にはウメなどの植栽がみられる。

前方部は、公有化前に存在した建物のため上部が削平されている。更に、建物の基礎や配管、コンクリート枠の井戸などが残されている。これまで発掘調査を行っておらず、改変前の前方部の形状は明らかでない。また、雨水により盛土の流出がみられ、墳丘及び樹木の損傷への対策が必要である。

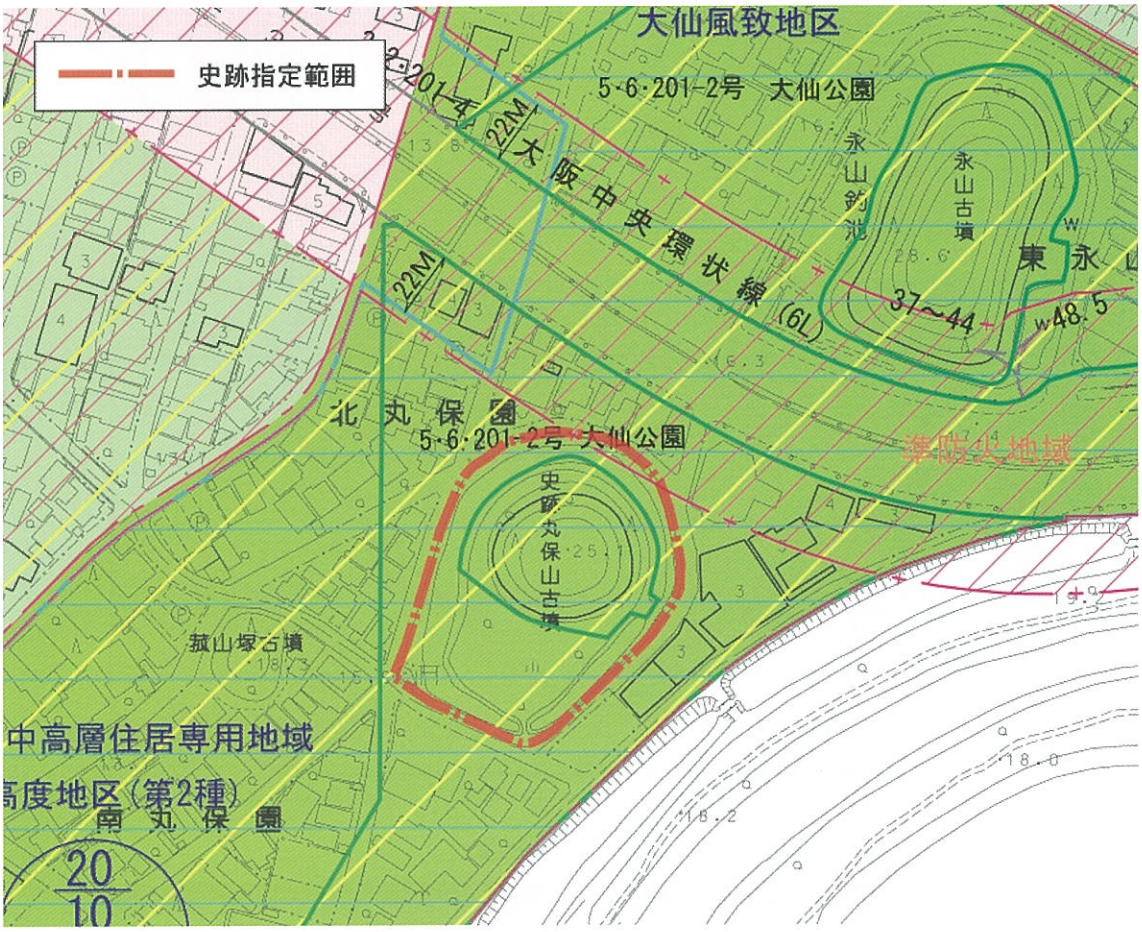
史跡の周囲は道路に接し、車の交通量が多いため、見学者への安全確保が必要である。

なお、丸保山古墳は、本市と宮内庁で古墳の管理を行っていることから、墳丘及び周濠の保全について、管理や対応を連携して行う必要がある。

平成 19 年　航空写真

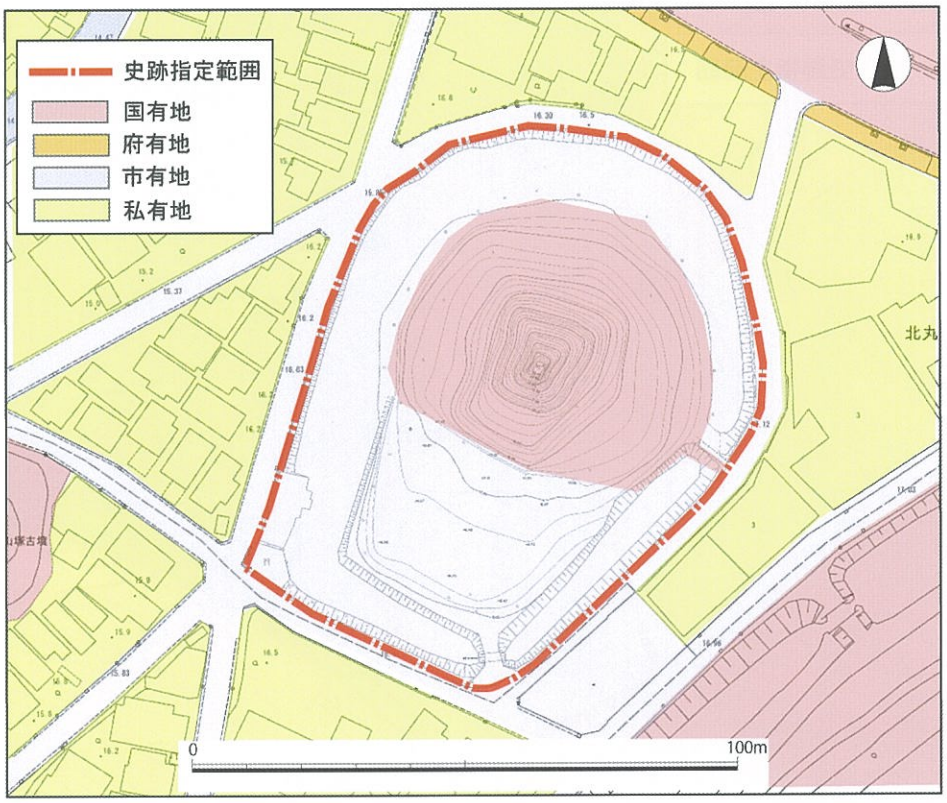


昭和 17 年　航空写真

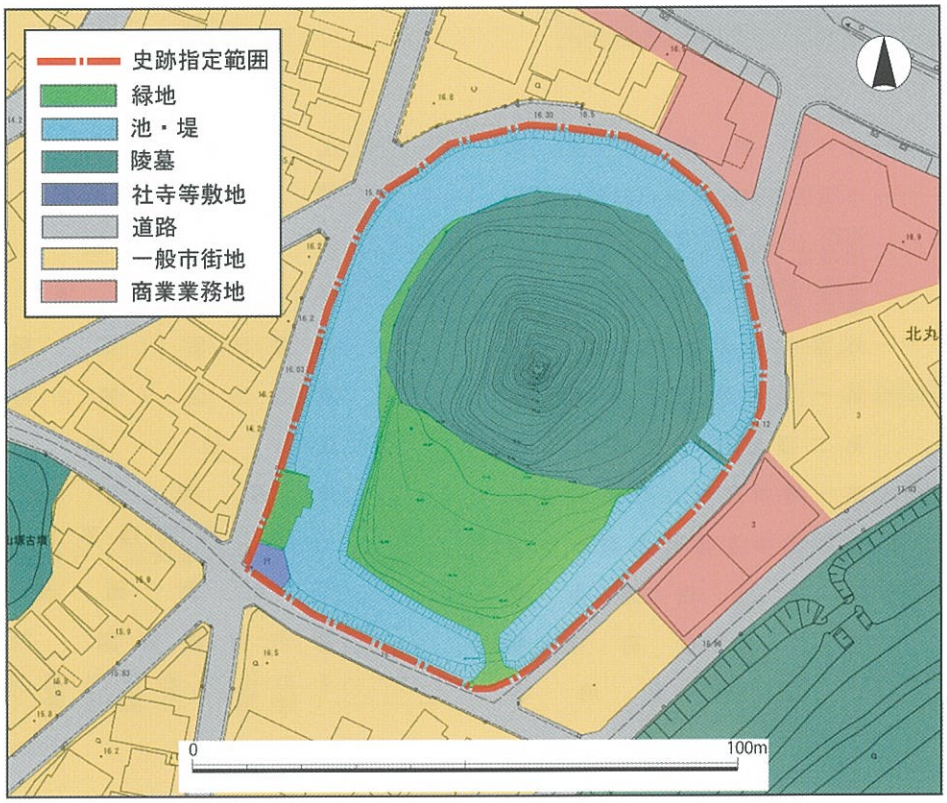


都市計画区域界		工業地域	
市街化区域・市街化調整区域界		無指定地	
道路・河川等の地形・地物による地域界（原則としてその中心）		防火地域	
道路・鉄軌道等からの後退線、その他の見通し線による地域界		準防火地域	
外壁の後退距離（1m）		高度地区（第1種）	
第一種低層住居専用地域		高度地区（第2種）	
第二種低層住居専用地域		風致地区	
第一種中高層住居専用地域		生産緑地地区	
第二種中高層住居専用地域		土地区画整理事業区域（53条区域又は76条区域）	
第一種住居地域		都市計画道路	
第二種住居地域		都市計画公園・緑地	
近隣商業地域		その他の都市計画施設（道路・公園を除く）	

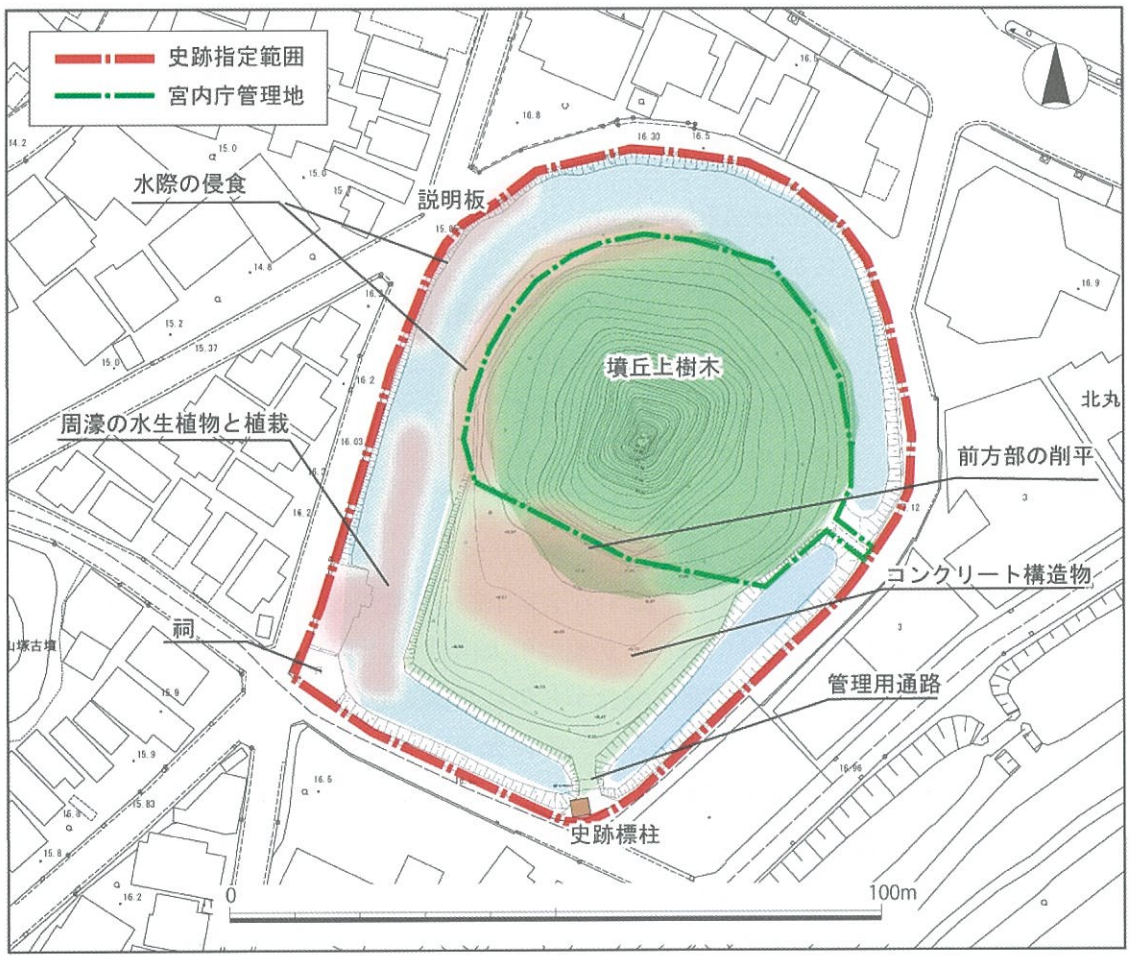
都市計画図



土地所有区分図



土地利用状況図



史跡標柱と説明板

滞水により生じた浸食

墳丘上樹木と前方部の削平

管理用通路

南西隅に位置する祠

前方部上のコンクリート構造物

現状と課題

⑦乳岡古墳

所　在　地　：　堺区石津町２丁
規　　模　：　墳丘長 155m の前方後円墳
築造年代　：　４世紀後半
指定面積　：　5,529.25 ㎡
公有化面積　：　5,529.25 ㎡
調査と保存の経過　：　昭和 47 年　埋葬施設発掘調査
昭和 49 年　史跡指定
昭和 55 年　公有化完了
平成 21 年　地中レーダ探査

史跡の現状　：

【古墳の状況】　立地・規模・残存状況・管理状況

百舌鳥古墳群の南西部、低地に位置する全長 155m、後円部径 94m、後円部高 14mの前方後円墳で、後円部は良好に残る。立地は信太山台地の西端に位置し、石津川に向かって開口する旧河谷あるいは流路の浸食から免れた微高地に築かれている。現在、前方部はわずかに細長い高まりが残るのみで、その大半は宅地になっている。また、現在は埋没しているが、周濠の存在が確認されている。史跡指定前の昭和 47 年の発掘調査により、埋葬施設の被覆粘土の下から長持形石棺の埋葬施設が確認されている。

【古墳周辺の整備状況】　整備利用状況・周辺の景観や環境等

墳丘上にはエノキやアキニレなどの落葉樹のほか、ヤブツバキなどの常緑樹も点在する。また、墳丘の大半は草地に覆われており、更に、寺院があった墳頂部にはイロハモミジなどが点在している。

墳頂部で確認した石棺は、現在、土留めブロックとコンクリートで覆うことで保護している。

前方部に古墳の標柱と説明板が設置されている。前方部の史跡境界はネットフェンスで囲まれている。

【課題】

前方部の史跡範囲内に電柱が設置されている。

接道が前方部南端に限られており、管理や見学に支障が生じている。

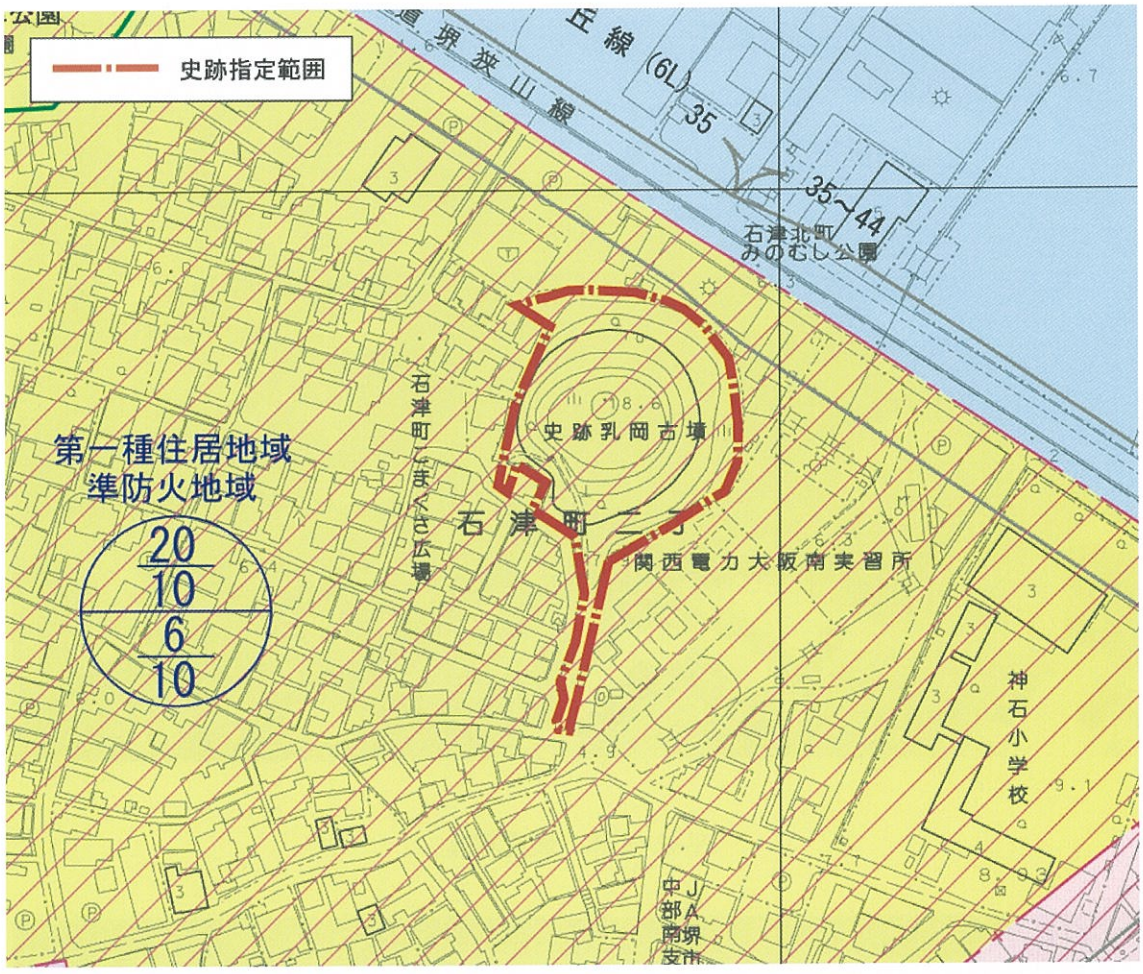
史跡指定前は墳丘上に寺院があり、現在も建物の礎石やアプローチの階段などが半壊状態で存在し、塩ビ管や井戸などが露出した状態で残っている。

石棺を覆っているモルタルや土留めブロックが経年劣化によりいたんでいる。

墳丘は裾の削平に伴う急斜面や崖面周辺で、土の流出が始まっている部分があり、これが進行するとすべりが生じる危険性があり、早急な対応が必要である。

平成 19 年　航空写真

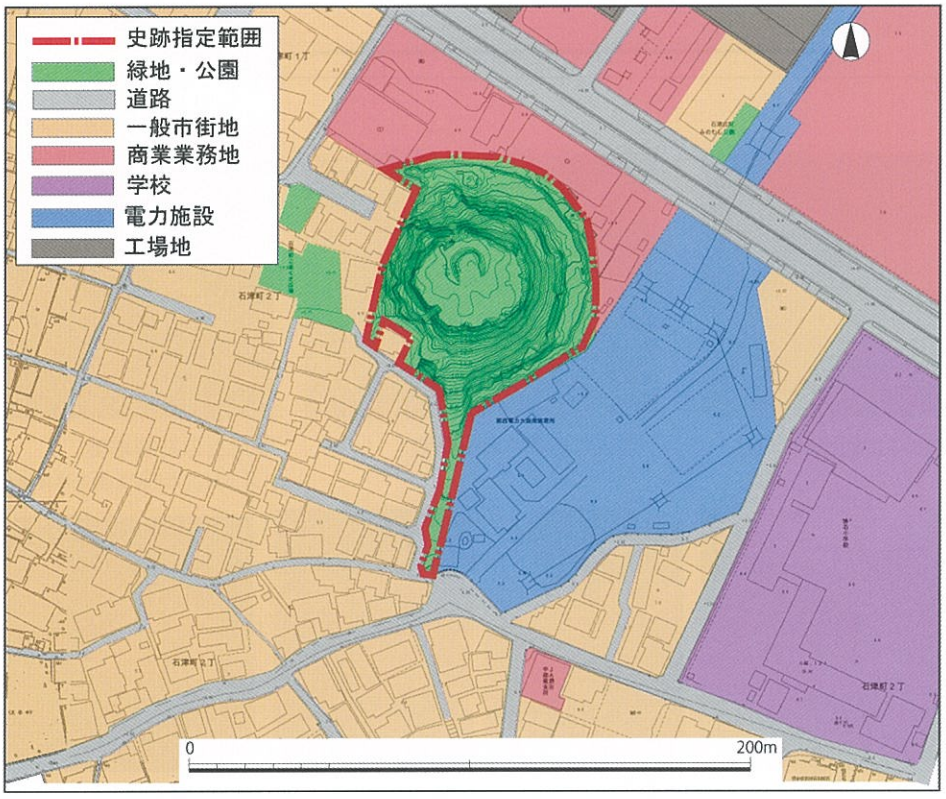
昭和 17 年　航空写真



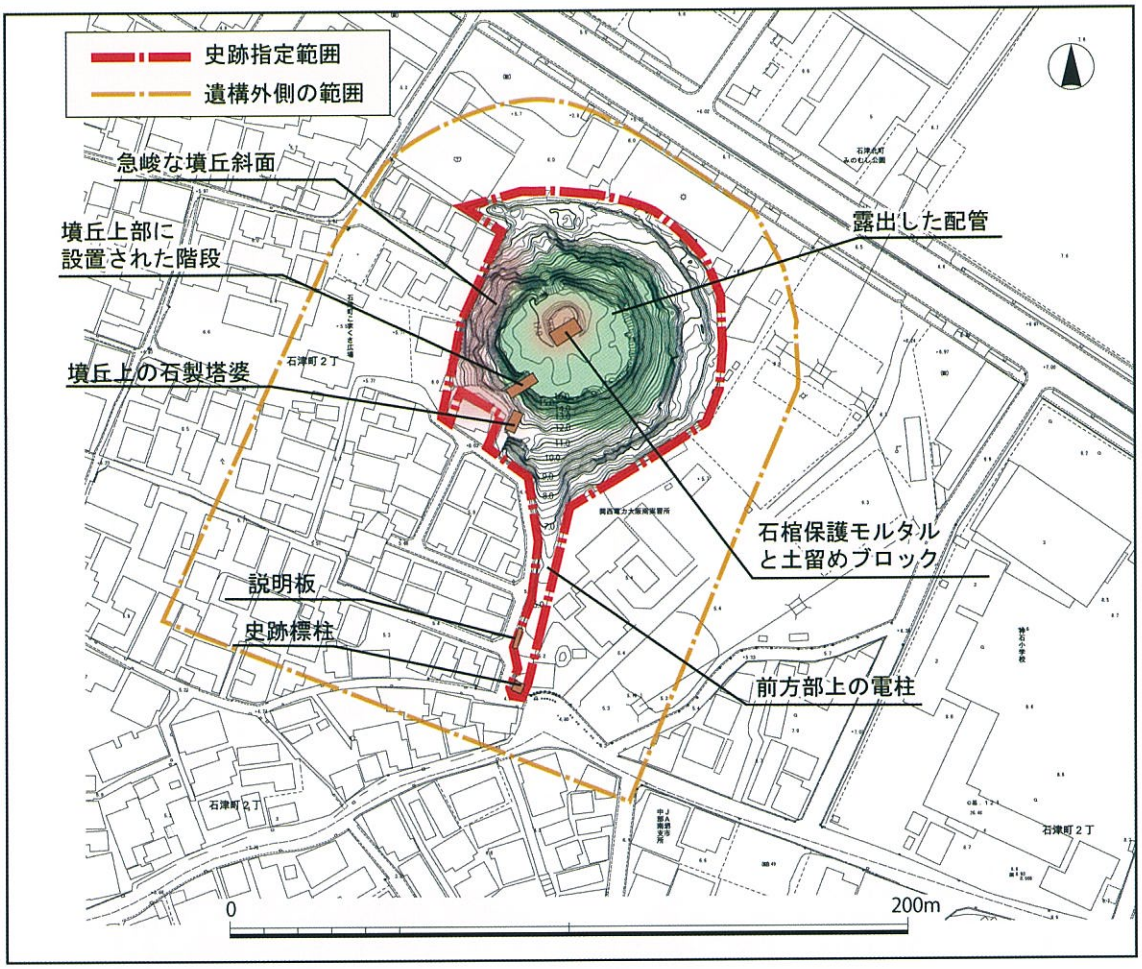
都市計画区域界		工業地域	
市街化区域・市街化調整区域界		無指定地	
道路・河川等の地形・地物による地域界（原則としてその中心）		防火地域	
道路・鉄軌道等からの後退線、その他の見通し線による地域界		準防火地域	
外壁の後退距離（１ｍ）		高度地区（第１種）	
第一種低層住居専用地域		高度地区（第２種）	
第二種低層住居専用地域		風致地区	
第一種中高層住居専用地域		生産緑地地区	
第二種中高層住居専用地域		土地区画整理事業区域（５３条区域又は７６条区域）	
第一種住居地域		都市計画道路	
第二種住居地域		都市計画公園・緑地	
近隣商業地域		その他の都市計画施設（道路・公園を除く）	

都市計画図

土地所有区分図



土地利用状況図



石棺保護モルタルと土留めブロック

墳丘に設置された階段

墳丘上の石製塔婆

（1基は府古文化紀念物等保存顕彰規則指定）

露出した配管

急峻な墳丘斜面

前方部上の電柱

説明板

現状と課題

⑧御廟表塚古墳

所　　在　　地　：　北区中百舌鳥町４丁
規　　模　：　墳丘長 84.8m の帆立貝形前方後円墳
築造年代　：　5 世紀後半
指定面積　：　3,269.26 ㎡
公有化面積　：　0 ㎡
調査と保存の経過　：　平成 20 年　地中レーダ探査
平成 23 年　墳丘・周濠調査
平成 26 年　史跡指定
史跡の現状　：

【古墳の状況】　立地・規模・残存状況・管理状況

御廟表塚古墳は、信太山台地上の百舌鳥川北岸に位置する。墳丘は、全長 84.8m、後円部径 67.6m、後円部高 6.5m、前方部幅 32.0mの帆立貝形前方後円墳だが、耕地開発や宅地開発により、周濠の大半が埋められ、前方部が失われている。史跡指定地は、後円部及び北東隅に残された周濠である。平成 20 年の地中レーダ探査では、後円部中央に埋葬施設が存在する可能性が高まった。また、平成 23 年度の発掘調査では、後円部は 2 段築成であり、テラスに埴輪列が並ぶことを確認した。

【古墳周辺の整備状況】　整備利用状況・周辺の景観や環境等

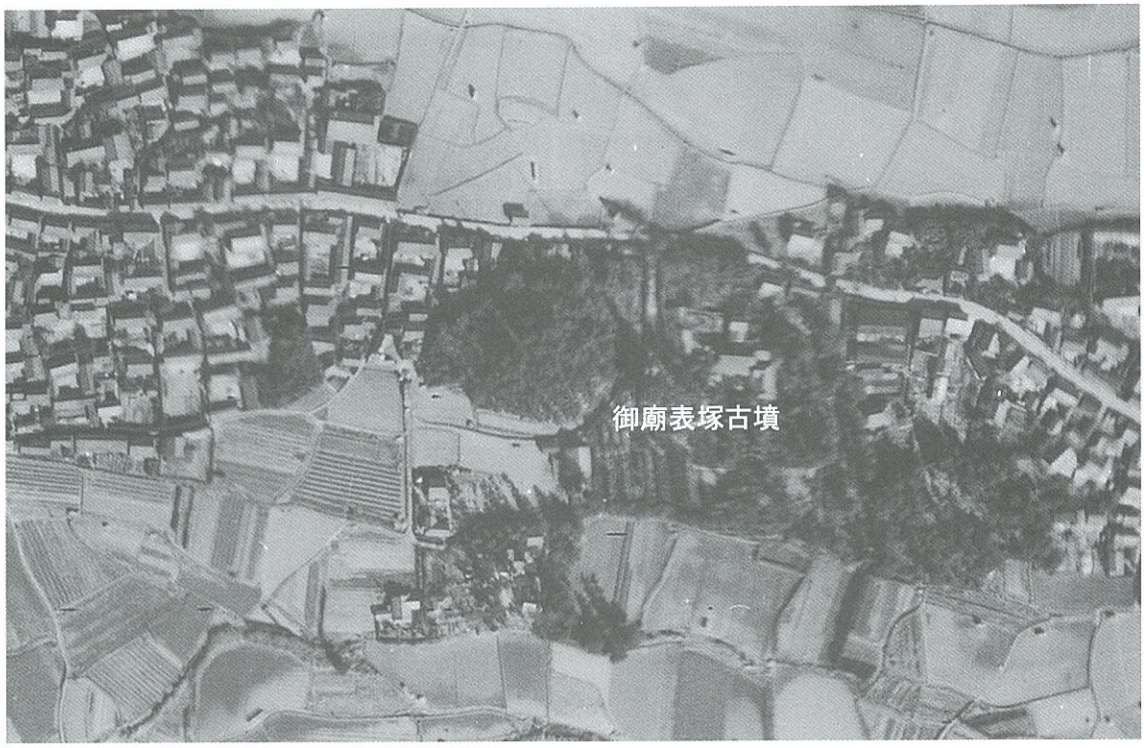
古墳は民有地であるが、堺市緑の広場として園路や木柵を設置し整備することで市民に公開されている。墳丘はアベマキを中心とした落葉広葉樹で形成しており、部分的にクロマツやシュロがみられる。また、北東の池及び堤は竹林となっている。北東隅の池は、水の出入りはなく湿地状となっている。

【課題】

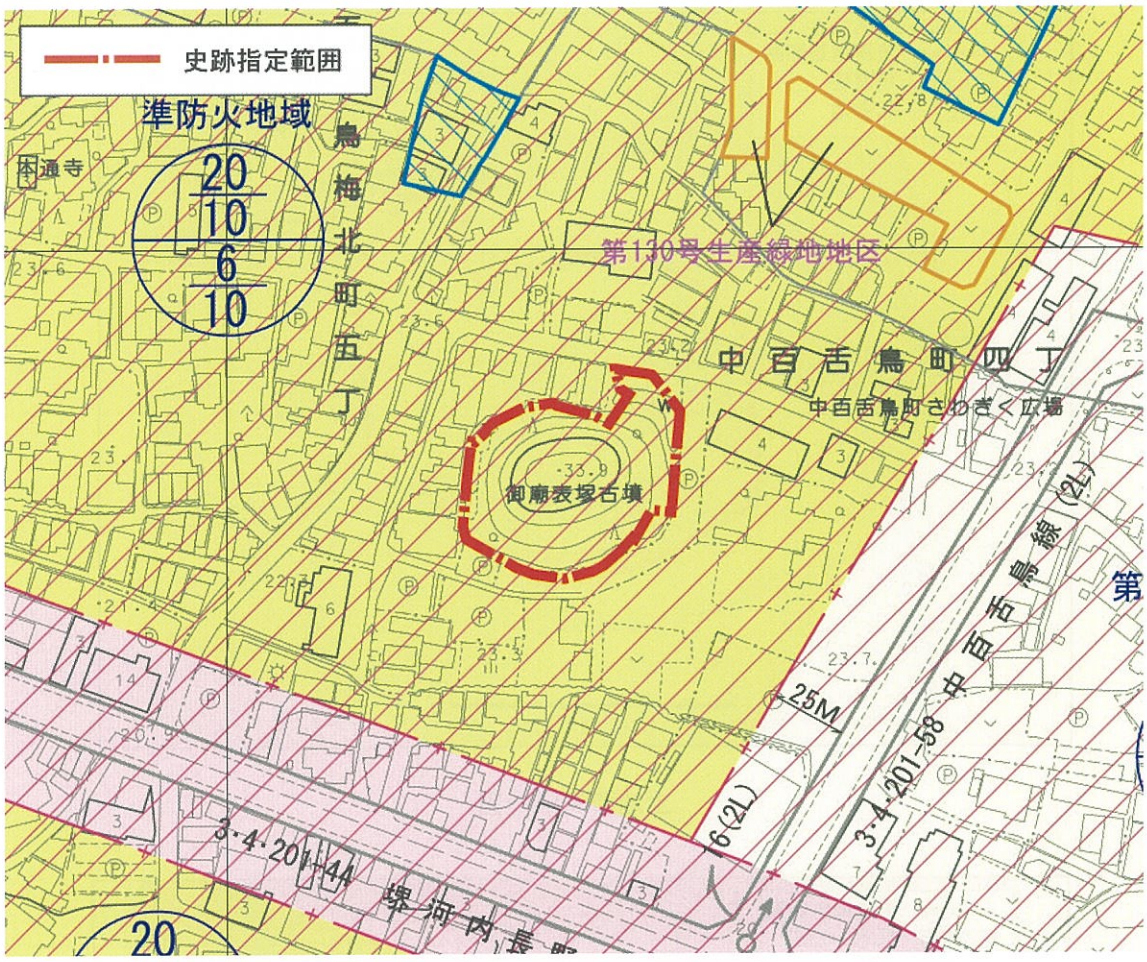
後円部北側及び前方部は住宅地となっている。削平に伴うくびれ部の切断面付近には、防草シートが張られており、雨水が透水せず斜面を流れるため、排水の対策が必要である。濠周辺の竹林は、遺構を痛めるうえ、水質にも影響を与えるため対策が必要である。

更に、史跡の範囲は北東隅しか接道しておらず、今後、管理や見学に支障が生じる可能性がある。

平成 19 年　航空写真

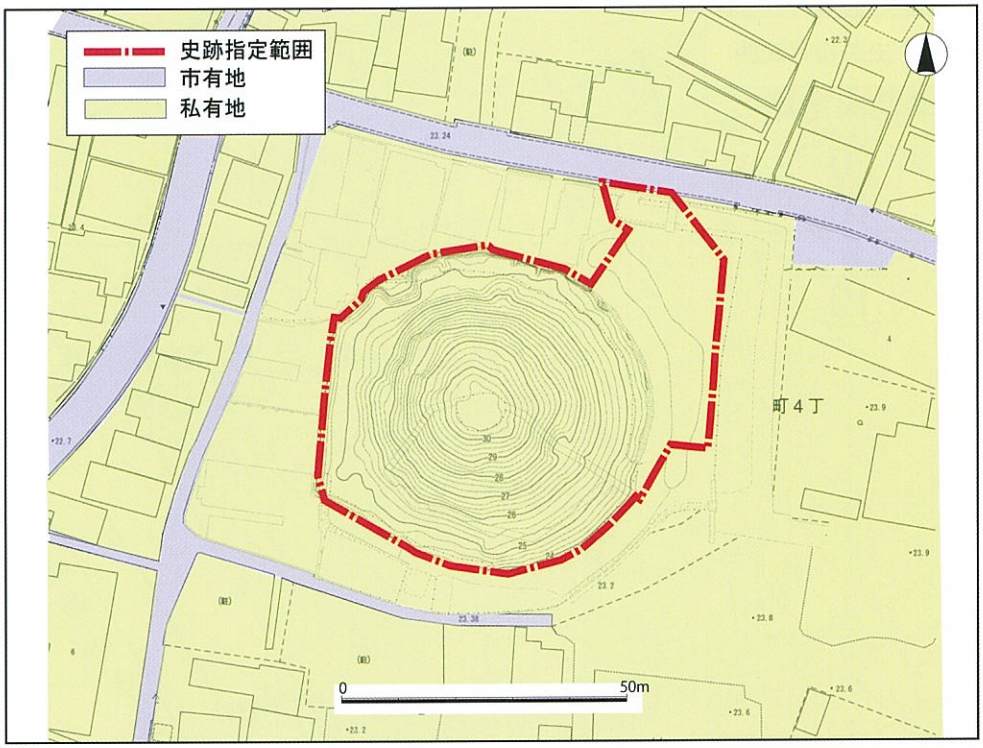


昭和 17 年　航空写真

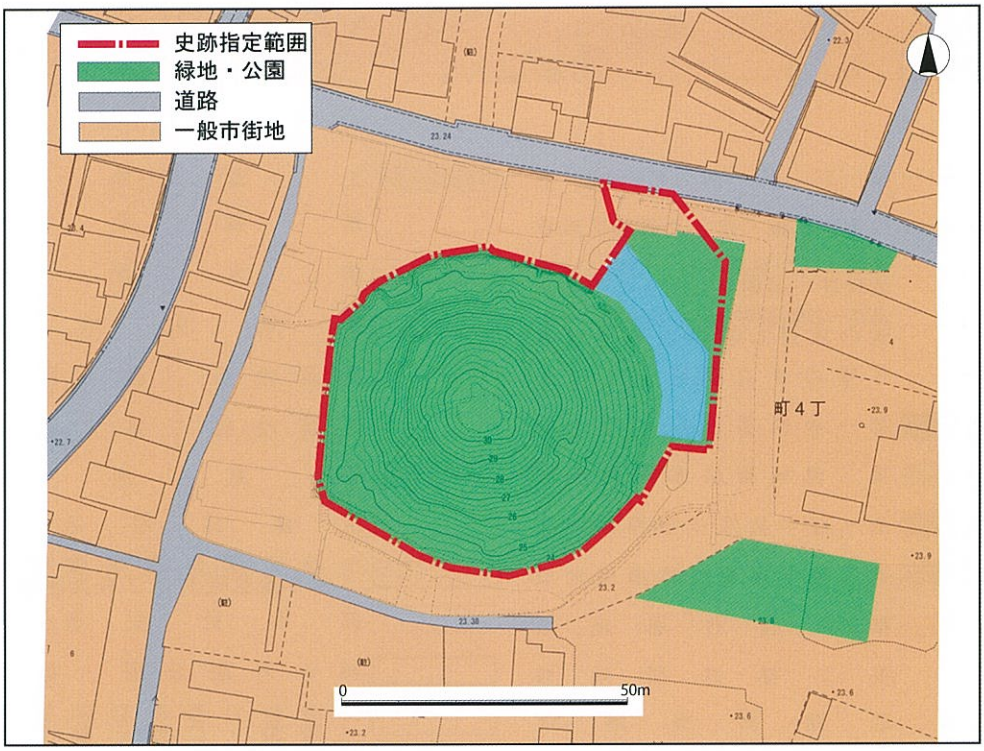


都市計画区域界		工業地域	
市街化区域・市街化調整区域界		無指定地	
道路・河川等の地形・地物による地域界（原則としてその中心）		防火地域	
道路・鉄軌道等からの後退線、その他の見通し線による地域界		準防火地域	
外壁の後退距離（1m）		高度地区（第1種）	
第一種低層住居専用地域		高度地区（第2種）	
第二種低層住居専用地域		風致地区	
第一種中高層住居専用地域		生産緑地地区	
第二種中高層住居専用地域		土地区画整理事業区域（53条区域又は76条区域）	
第一種住居地域		都市計画道路	
第二種住居地域		都市計画公園・緑地	
近隣商業地域		その他の都市計画施設（道路・公園を除く）	

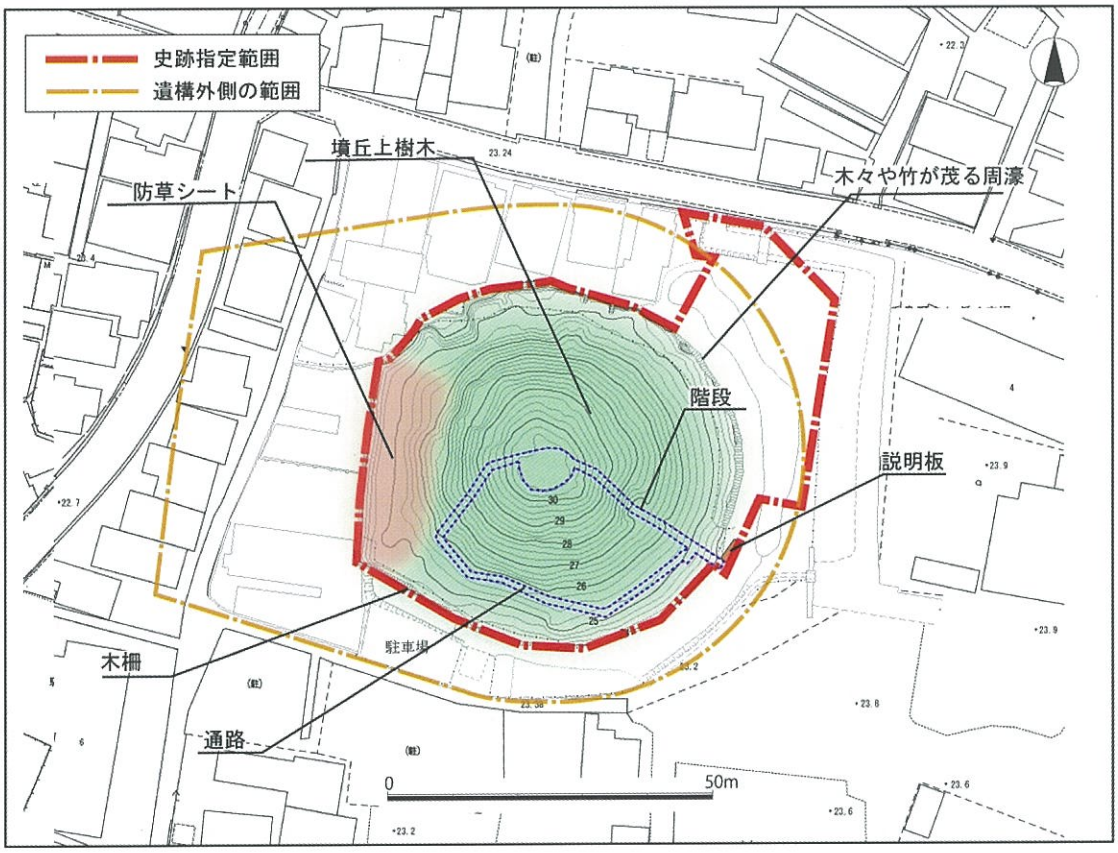
都市計画図



土地所有区分図



土地利用状況図



木製の縁石で整備された通路

境界部分に設置された木柵

防草シート

丸太で整備された階段

説明板

木々や竹が繁る周濠

現状と課題

⑨ドンチャ山古墳

所　　在　　地　：　北区百舌鳥陵南町３丁
規　　模　：　直径 26mの円墳
築造年代　：　6 世紀前半
指定面積　：　578.07 ㎡
公有化面積　：　578.07 ㎡
調査と保存の経過　：　平成 21 年　墳丘調査
　　平成 26 年　史跡指定
史跡の現状　：

【古墳の状況】　立地・規模・残存状況・管理状況

ドンチャ山古墳は、信太山台地上の美濃川北岸に位置する、直径 26m、現況高 2.2m の円墳である。陵南中央公園にあり、正楽寺山古墳と接するように築造されている。また西側にはかつて平井塚古墳が存在していた。平成 21 年度の調査では、墳丘は 2 段築成であり、盛土の構築方法を確認した。古墳築造時期を示す遺物は確認できなかったが、盛土の工法から 6 世紀前半の築造である可能性が高い。

本墳は正楽寺山古墳やかつて存在したとされる平井塚古墳、文山古墳とともに美濃川に向かって下降を開始する傾斜変換点付近の段丘面に近接して、一列に並ぶように配置され、独立した小さな群を形成しているかに見える。平井塚古墳は全長 58mの前方後円墳で、この群の盟主的存在で 6 世紀前半の築造と考えられている。これらの古墳と美濃川を挟んだ対岸には、百舌鳥古墳群の築造に関与した技術者集団の集落跡と考えられている、土師遺跡がある。土師遺跡は、周辺で大型古墳が築造されなくなる 6 世紀前半まで存続し、その後急速に規模が縮小する。そのため、本墳や近接する古墳は、古墳築造技術者集団が当地に集落を構えた終末期の古墳であろう。これらのことから本墳並びに正楽寺山古墳は、百舌鳥古墳群の終焉を示す現存する古墳である。

【古墳周辺の整備状況】　整備利用状況・周辺の景観や環境等

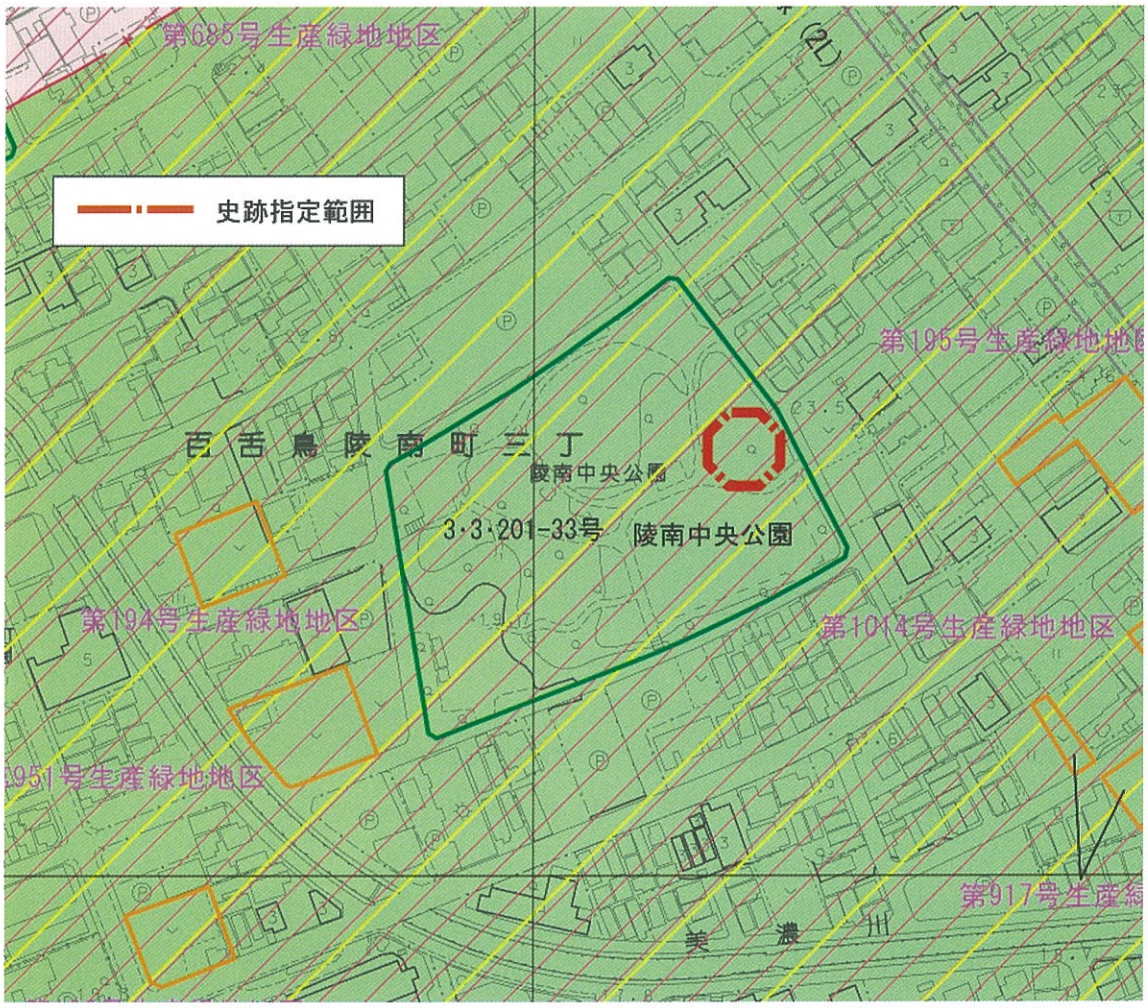
古墳は公園内にあり、墳丘西側及び南側には園路が設置されている。墳丘上及び周辺には、アラカシやクロガネモチをはじめとする樹木が生育する。なお、わずかな範囲であるが、正楽寺山古墳、ドンチャ山古墳の範囲は、区画整理の造成を受けず、旧状が保たれている。

【課題】

古墳南側のグラウンド、及び北側、西側の森は公園整備による盛土がなされ、旧地形の把握が困難となっている。また、古墳の周囲には園路があり、古墳整備に際しては関係部局との調整が必要である。更に、古墳の説明板がなく見学者が古墳を認識することが困難であり、見学に必要な施設の整備が必要である。

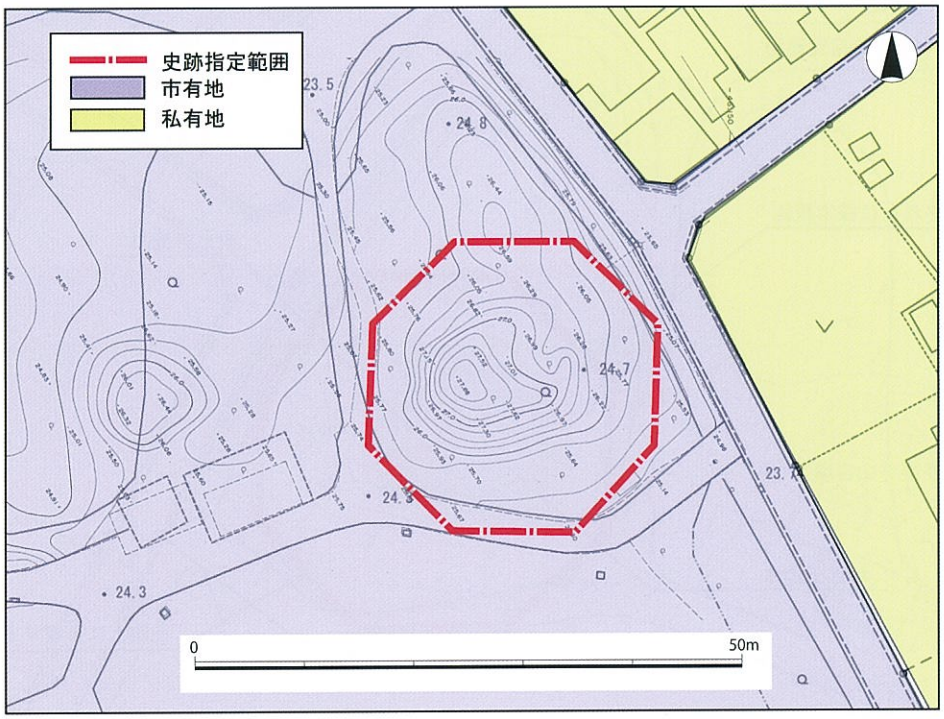
平成 19 年　航空写真

昭和 17 年 航空写真

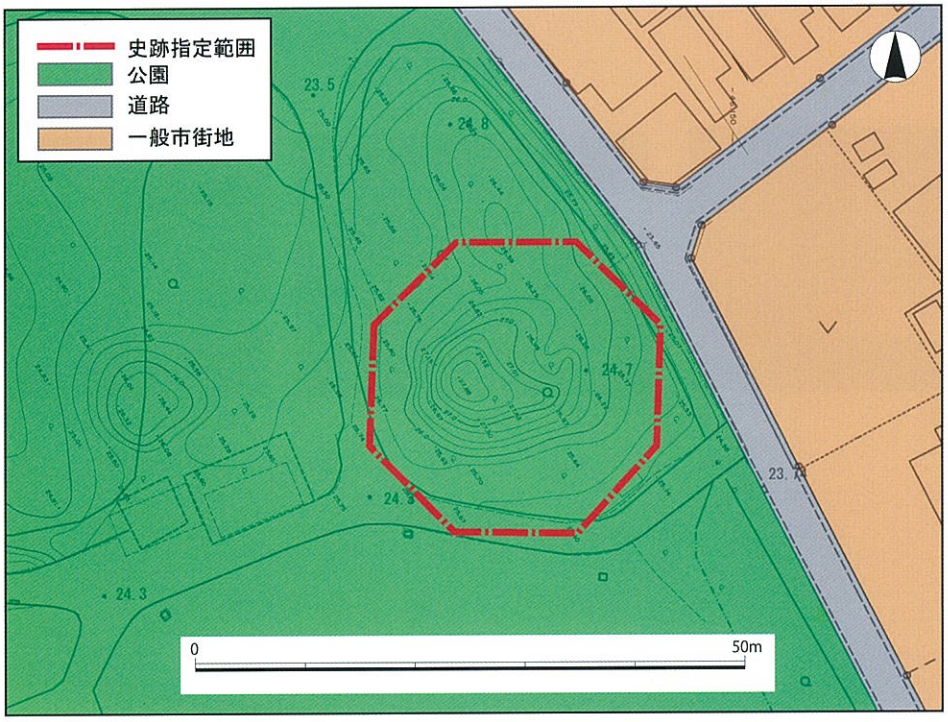


都市計画区域界		工業地域	
市街化区域・市街化調整区域界		無指定地	
道路・河川等の地形・地物による地域界（原則としてその中心）		防火地域	
道路・鉄軌道等からの後退線、その他の見通し線による地域界		準防火地域	
外壁の後退距離（１ｍ）		高度地区（第１種）	
第一種低層住居専用地域		高度地区（第２種）	
第二種低層住居専用地域		風致地区	
第一種中高層住居専用地域		生産緑地地区	
第二種中高層住居専用地域		土地区画整理事業区域（５３条区域又は７６条区域）	
第一種住居地域		都市計画道路	
第二種住居地域		都市計画公園・緑地	
近隣商業地域		その他の都市計画施設（道路・公園を除く）	

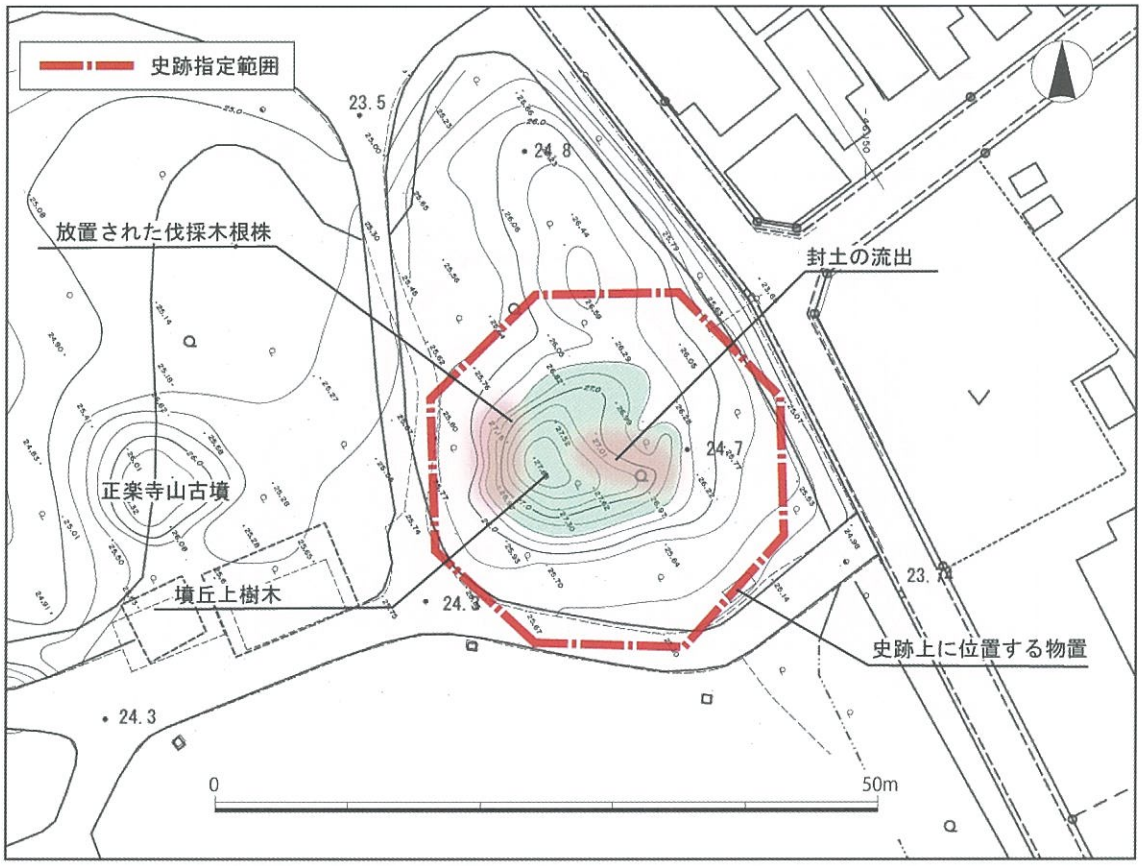
都市計画図



土地所有区分図



土地利用状況図



園路と墳丘

墳丘上樹木と伐採木根株

史跡境界上に位置する物置

現状と課題

⑩正楽寺山古墳

所　在　地　：　北区百舌鳥陵南町３丁
規　　模　：　直径 16mの円墳
築造年代　：　6 世紀前半
指定面積　：　459.17 ㎡
公有化面積　：　459.17 ㎡
調査と保存の経過　：　平成 21 年　墳丘調査
　　平成 26 年　史跡指定
史跡の現状　：

【古墳の状況】　立地・規模・残存状況・管理状況

正楽寺山古墳は、信太山台地上の美濃川北岸に位置する、直径 16m、現況高 1.4mの円墳である。陵南中央公園にあり、ドンチャ山古墳と接するように築造されている。また西側にはかつて平井塚古墳が存在していた。平成 21 年度の調査では、墳丘は 2 段築成で、盛土の状況から中央に埋葬施設が残されている可能性が高まった。出土した須恵器から、6 世紀前半の築造である。

本墳は、正楽寺山古墳やかつて存在したとされる平井塚古墳、文山古墳とともに美濃川に向かって下降を開始する傾斜変換点付近の段丘面に近接して、一列に並ぶように配置され、独立した小さな群を形成しているかに見える。これらの古墳と美濃川を挟んだ対岸には、百舌鳥古墳群の築造に関与した技術者集団の集落跡と考えられている、土師遺跡がある。本墳や近接する古墳は、古墳築造技術者集団が当地に集落を構えた古墳であり、百舌鳥古墳群の終焉を示す現存する古墳である。

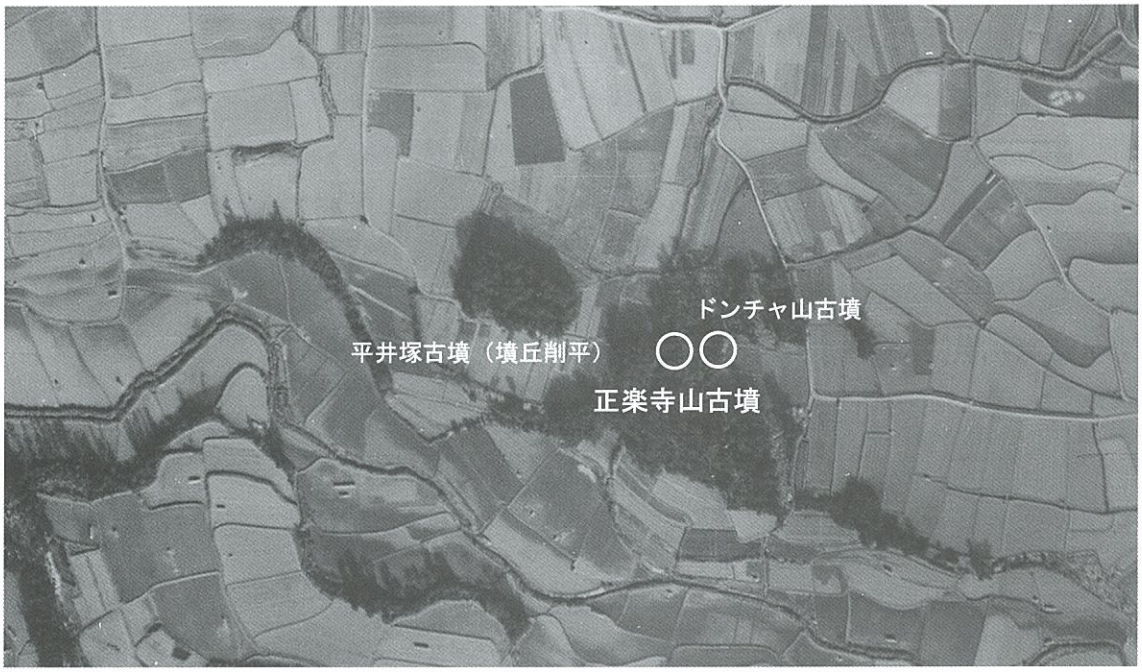
【古墳周辺の整備状況】　整備利用状況・周辺の景観や環境等

古墳は公園内にあり、墳丘周辺には園路が、南側にはパーゴラが設置されている。墳丘上及び周辺にはウバメガシやアラカシをはじめとする樹木が生育する。なお、わずかな範囲であるが、正楽寺山古墳、ドンチャ山古墳の範囲は、区画整理の造成を受けず、旧状が保たれている。

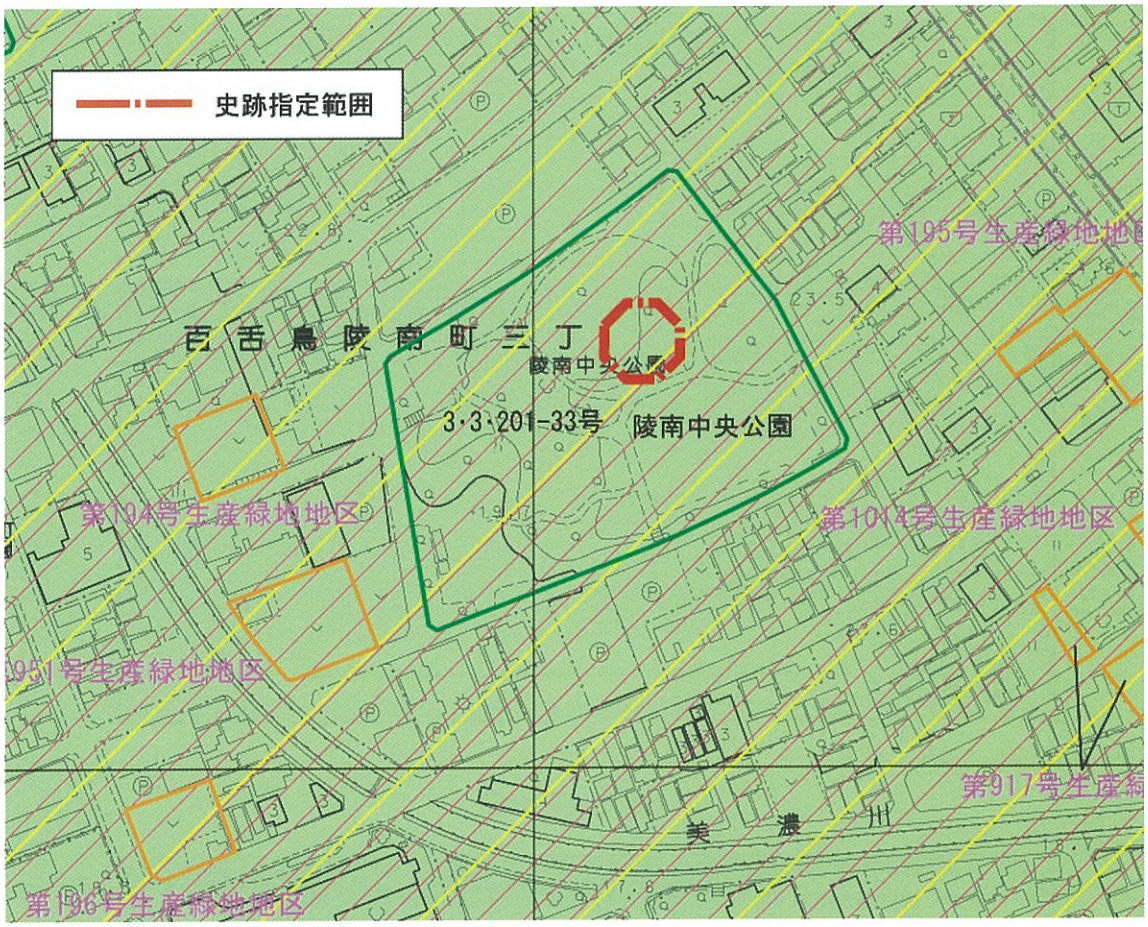
【課題】

古墳南側のグラウンド、及び北側、西側の森は公園整備による盛土がなされ、旧地形の把握が困難となっている。また、古墳南側の周濠部分にパーゴラが位置しており、古墳整備に際しては移転が必要である。更に、古墳の説明板がなく見学者が古墳を認識することが困難であり、見学に必要な施設の整備が必要である。

平成 19 年　航空写真

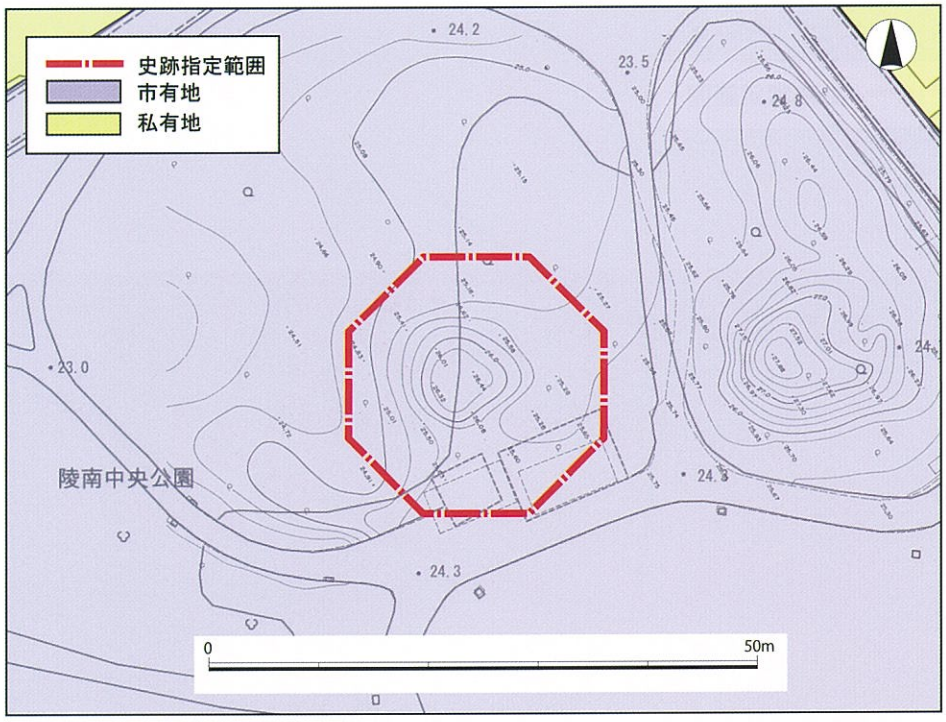


昭和 17 年　航空写真

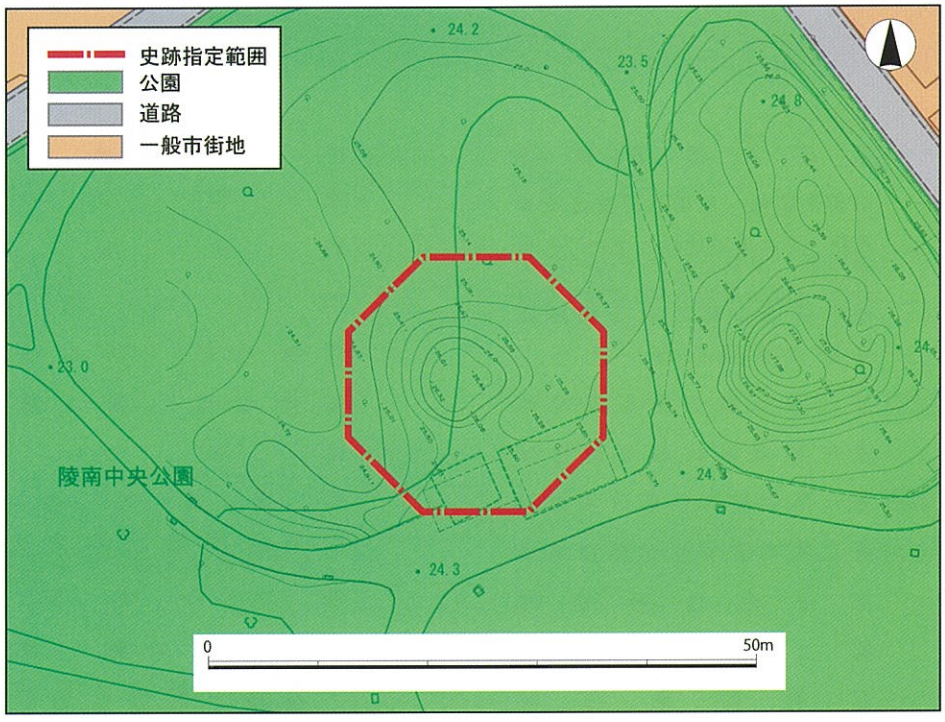


都市計画区域界		工業地域	
市街化区域・市街化調整区域界		無指定地	
道路・河川等の地形・地物による地域界（原則としてその中心）		防火地域	
道路・鉄軌道等からの後退線、その他の見通し線による地域界		準防火地域	
外壁の後退距離（１ｍ）		高度地区（第１種）	
第一種低層住居専用地域		高度地区（第２種）	
第二種低層住居専用地域		風致地区	
第一種中高層住居専用地域		生産緑地地区	
第二種中高層住居専用地域		土地区画整理事業区域（５３条区域又は７６条区域）	
第一種住居地域		都市計画道路	
第二種住居地域		都市計画公園・緑地	
近隣商業地域		その他の都市計画施設（道路・公園を除く）	

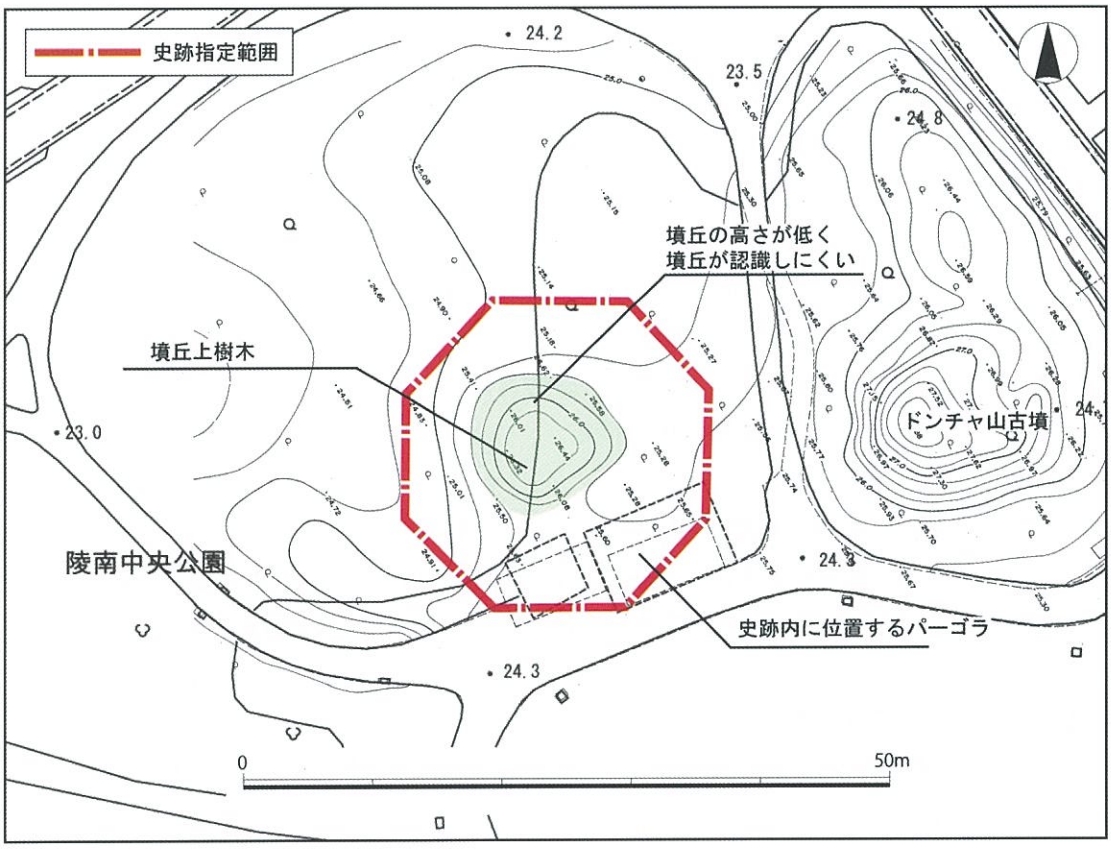
都市計画図



土地所有区分図



土地利用状況図



周辺よりやや小高い墳丘

墳丘の認識が困難

史跡内に位置するパーゴラ

現状と課題

⑪鏡塚古墳

所　　在　　地　：　北区百舌鳥赤畑町２丁
規　　模　：　直径 26m の円墳
築造年代　：　5 世紀中頃
指定面積　：　251.36 ㎡
公有化面積　：　35.44 ㎡
調査と保存の経過　：　平成６年　周濠調査
平成７年　墳丘・周濠調査
平成 26 年　史跡指定
史跡の現状　：

【古墳の状況】　立地・規模・残存状況・管理状況

鏡塚古墳は、仁徳天皇陵古墳（大山古墳）の東側、信太山台地上に位置する、直径 26m、現況高 1.2mの円墳である。史跡指定地は、現存する墳丘の範囲であり、商業施設内に位置している。なお、周濠は駐車場や道路となっている。

【古墳周辺の整備状況】　整備利用状況・周辺の景観や環境等

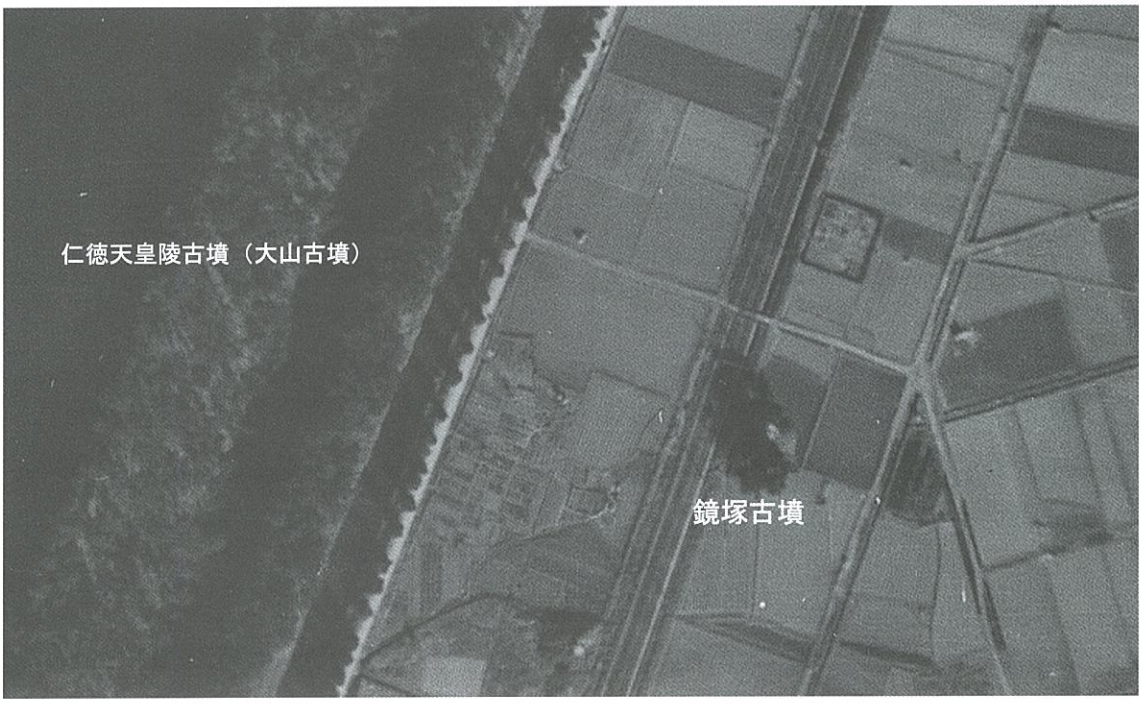
古墳の墳丘裾に縁石と擁壁を設置し、周囲は舗装がなされている。古墳は商業施設内の緑地となっており、墳丘裾に説明板を設置する。

【課題】

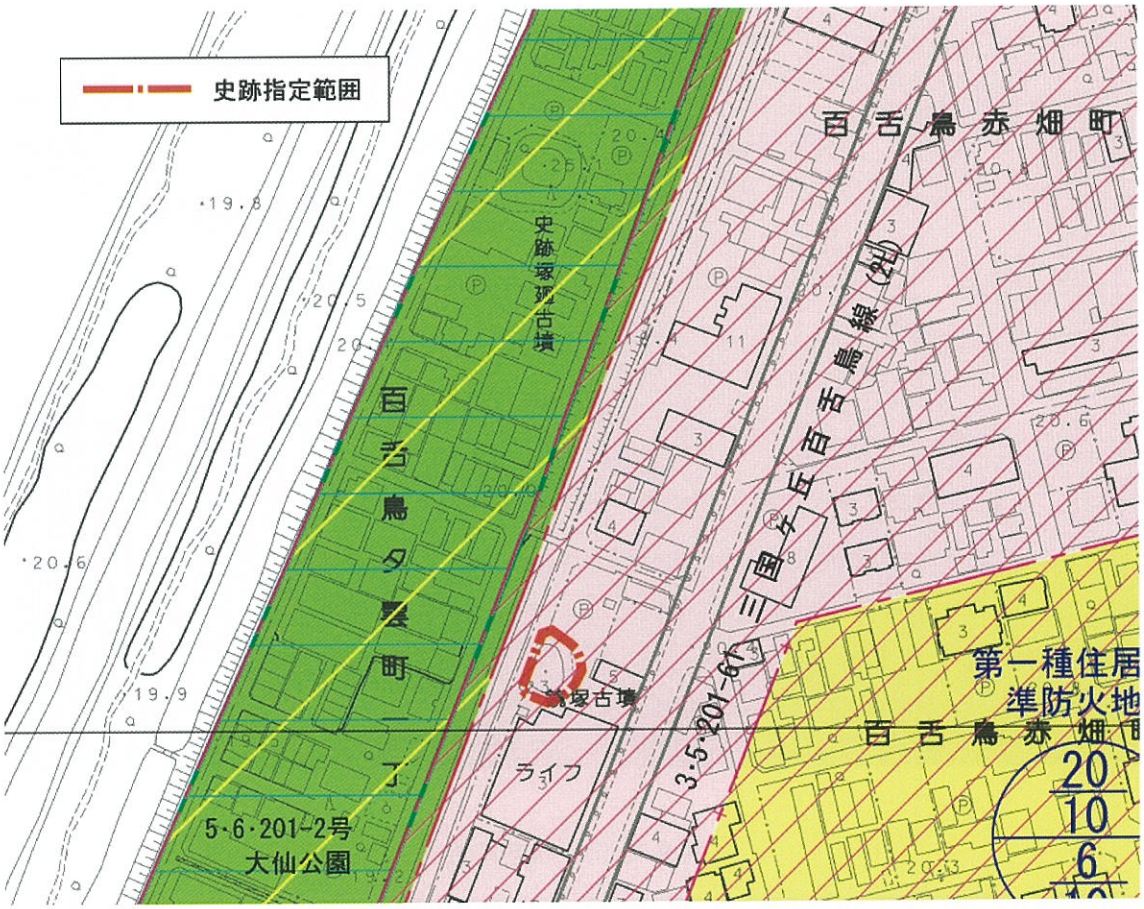
周濠及び墳丘は、区画整理により約 1m盛土がなされたため、墳丘頂部のみ露出していることから、古墳としての認識が困難となっている。

商業施設内に位置することから、見学方法や解説方法などの検討が必要である。

平成 19 年　航空写真

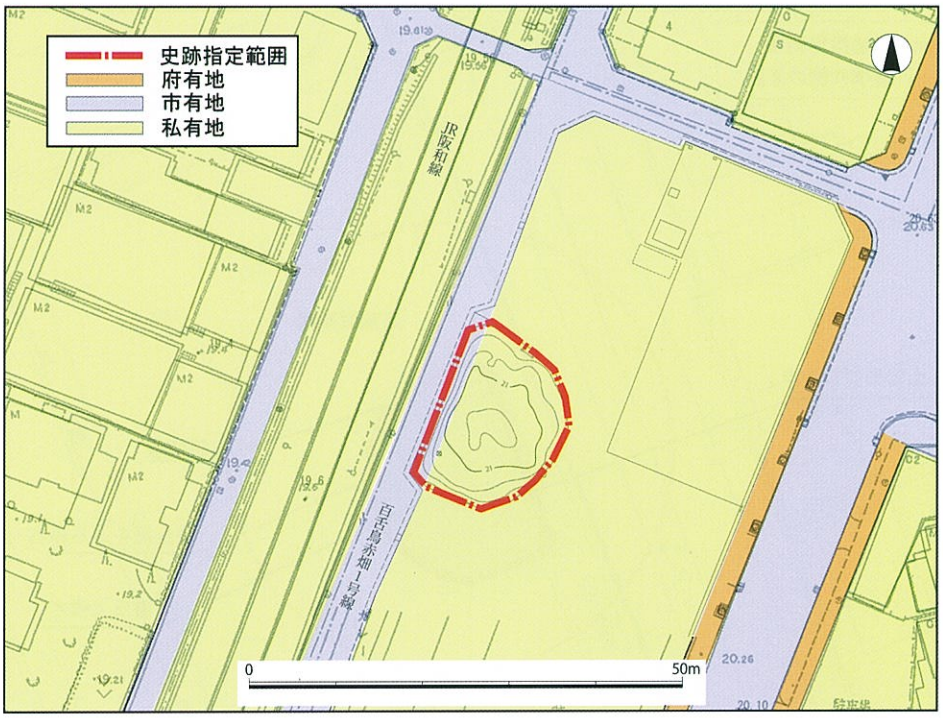


昭和 17 年　航空写真

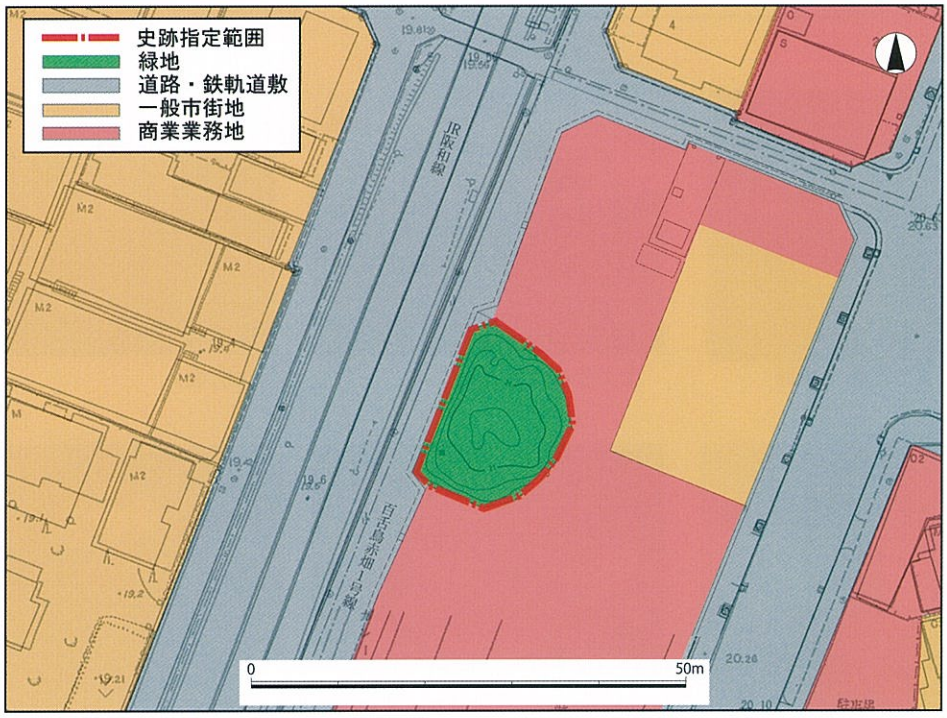


都市計画区域界		工業地域	
市街化区域・市街化調整区域界		無指定地	
道路・河川等の地形・地物による地域界（原則としてその中心）		防火地域	
道路・鉄軌道等からの後退線、その他の見通し線による地域界		準防火地域	
外壁の後退距離（１ｍ）		高度地区（第１種）	
第一種低層住居専用地域		高度地区（第２種）	
第二種低層住居専用地域		風致地区	
第一種中高層住居専用地域		生産緑地地区	
第二種中高層住居専用地域		土地区画整理事業区域（５３条区域又は７６条区域）	
第一種住居地域		都市計画道路	
第二種住居地域		都市計画公園・緑地	
近隣商業地域		その他の都市計画施設（道路・公園を除く）	

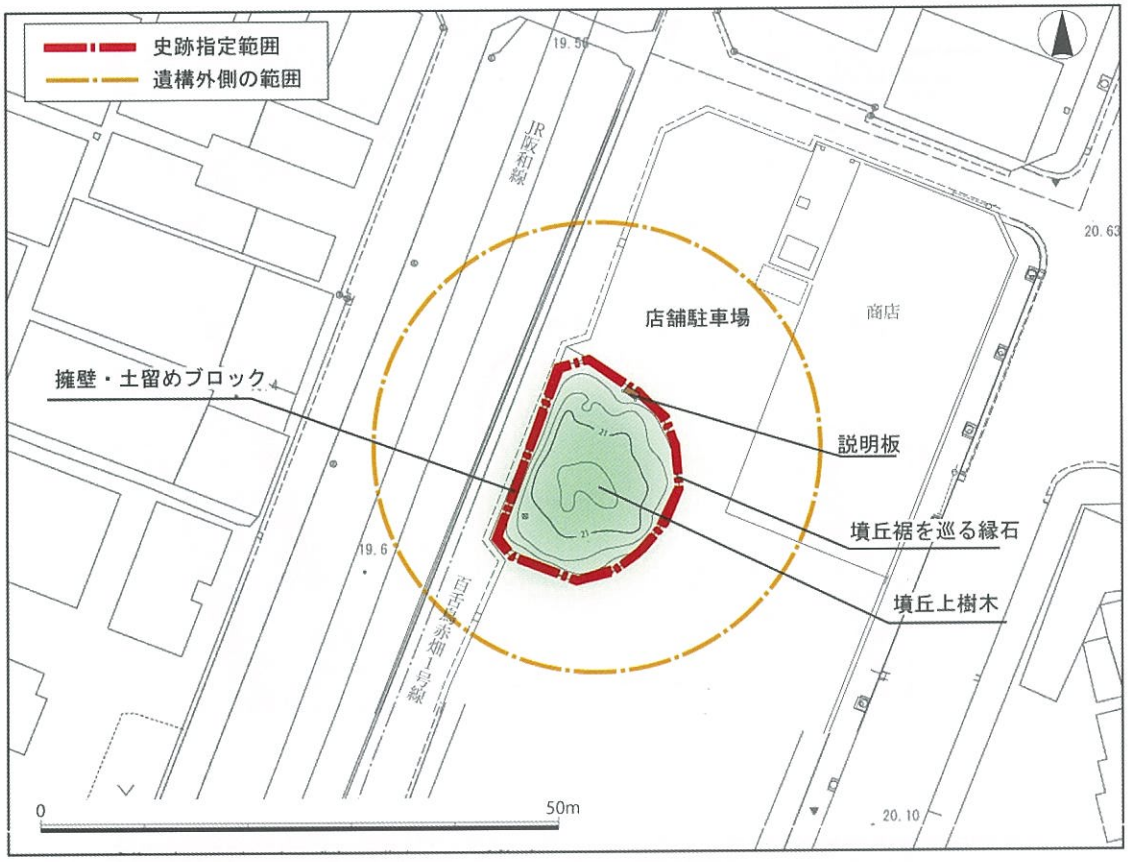
都市計画図



土地所有区分図



土地利用状況図



墳丘に接する道路や線路

周辺の店舗駐車場

説明板

墳丘上の高木

墳丘裾を巡る縁石

道路際の擁壁と土留めブロック

現状と課題

⑫善右ヱ門山古墳

所　　在　　地　：　北区百舌鳥本町３丁
規　　模　：　一辺 28mの方墳
築造年代　：　５世紀前半
指定面積　：　967.09 ㎡
公有化面積　：　　0 ㎡
調査と保存の経過　：　平成 12 年　墳丘調査
平成 15 年　墳丘調査
平成 26 年　史跡指定
史跡の現状　：

【古墳の状況】　立地・規模・残存状況・管理状況

善右ヱ門山古墳は、信太山台地上の百舌鳥川北岸に位置する、一辺 28m、現況高 2.4mの方墳である。いたすけ古墳の外堤と接するように築造されていることから、かつて存在していた播磨塚古墳、吾呂茂塚古墳とともに同古墳に付随する古墳と考えられる。古墳北側及び西側は道路により、南側は造成により墳丘が削平されている。

平成 12・15 年度の調査では、墳丘は２段築成で、テラス上に埴輪列を確認した。また、墳丘の周囲には明確な周濠を設けない。出土した埴輪から、５世紀前半の築造である。

【古墳周辺の整備状況】　整備利用状況・周辺の景観や環境等

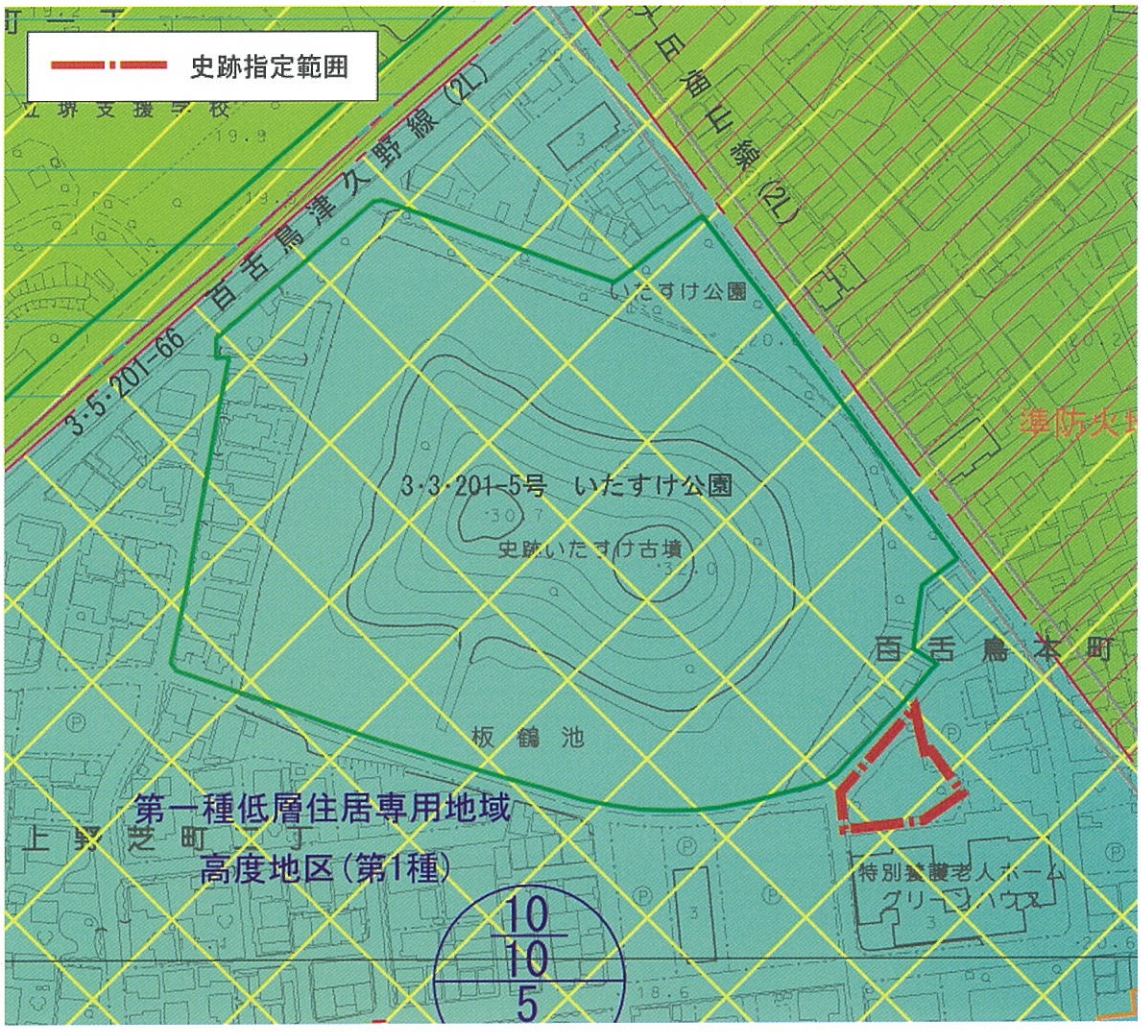
現存する墳丘は、特別養護老人ホームの緑地として残されている。墳丘上はナナミノキ、アラカシ、クロガネモチをはじめとする樹木が茂る。また北側の道路に接して説明板が設置されている。

【課題】

善右ヱ門山古墳といたすけ古墳の間には道路と住宅があり、景観の遮断が生じている。更に、古墳が、特別養護老人ホーム内に位置することから、道路から古墳を見学するための工夫が必要である。

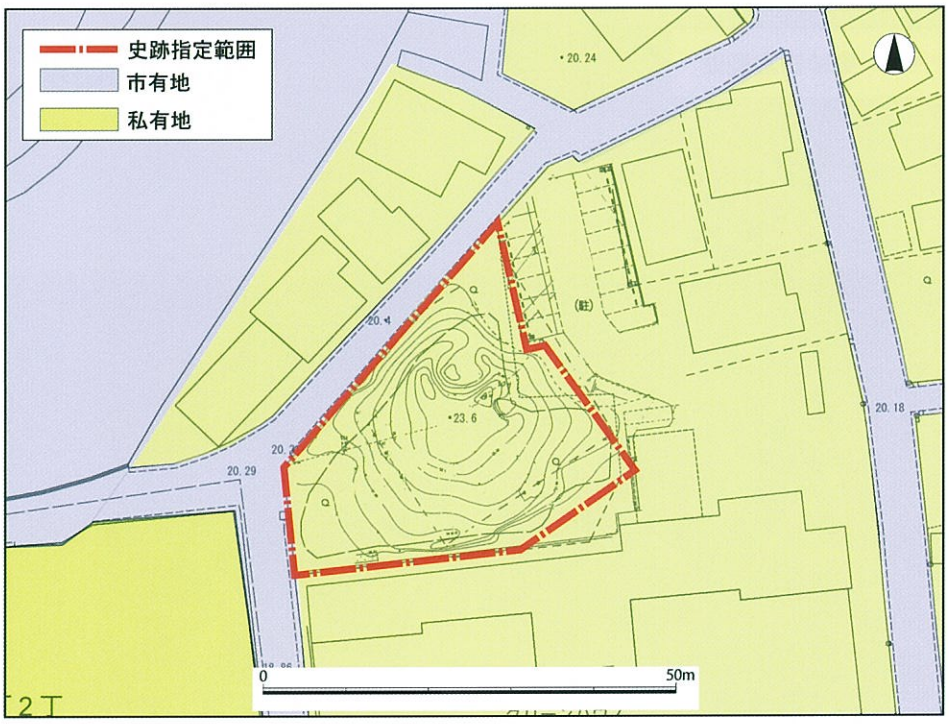
平成 19 年　航空写真

昭和 17 年　航空写真

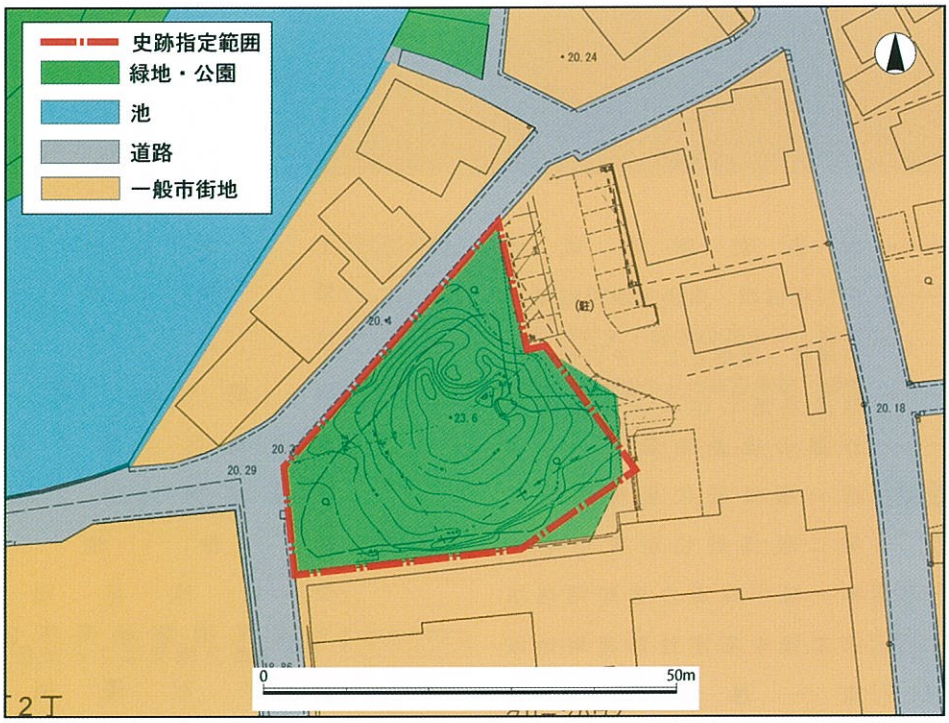


都市計画区域界		工業地域	
市街化区域・市街化調整区域界		無指定地	
道路・河川等の地形・地物による地域界（原則としてその中心）		防火地域	
道路・鉄軌道等からの後退線、その他の見通し線による地域界		準防火地域	
外壁の後退距離（1m）		高度地区（第1種）	
第一種低層住居専用地域		高度地区（第2種）	
第二種低層住居専用地域		風致地区	
第一種中高層住居専用地域		生産緑地地区	
第二種中高層住居専用地域		土地区画整理事業区域（53条区域又は76条区域）	
第一種住居地域		都市計画道路	
第二種住居地域		都市計画公園・緑地	
近隣商業地域		その他の都市計画施設（道路・公園を除く）	

都市計画図



土地所有区分図



土地利用状況図

フェンス・擁壁

説明板

墳丘上の樹木

隣接した駐車場

表土の流出

現状と課題

⑬銭塚古墳

所在地	：堺区東上野芝町１丁
規模	：墳丘長 72m の前方後円墳
築造年代	：5 世紀後半
指定面積	：3031.51 ㎡
公有化面積	：3031.51 ㎡
調査と保存の経過	：昭和 56・57 年　確認調査 平成 19 年　周濠・墳丘調査 平成 26 年　史跡指定

古墳の現状：

【古墳の状況】　立地・規模・残存状況・管理状況

百舌鳥古墳群の中央部、いたすけ古墳の北西方にあり、全長 72m、現況高 2.0m、後円部径 54m、前方部幅約 44mの前方部を西に向けた帆立貝形前方後円墳である。墳丘は後円部二段目上方並びに前方部が削平されているために、現状では扁平な円墳のような外観を呈している。明治 18 年から大正 4 年までの間に前方部が削平された。大阪府教育委員会の行った調査で、一段目テラスと考えられる部分で原位置を保つ円筒埴輪列が検出された。また、前方部南西隅のコーナーと推測される地山の段差が検出され、規模が判明した。埋葬施設は未確認で副葬品は不明確である。なお、濠は確認されていない。出土した埴輪より、5 世紀後半の築造と推測できる。

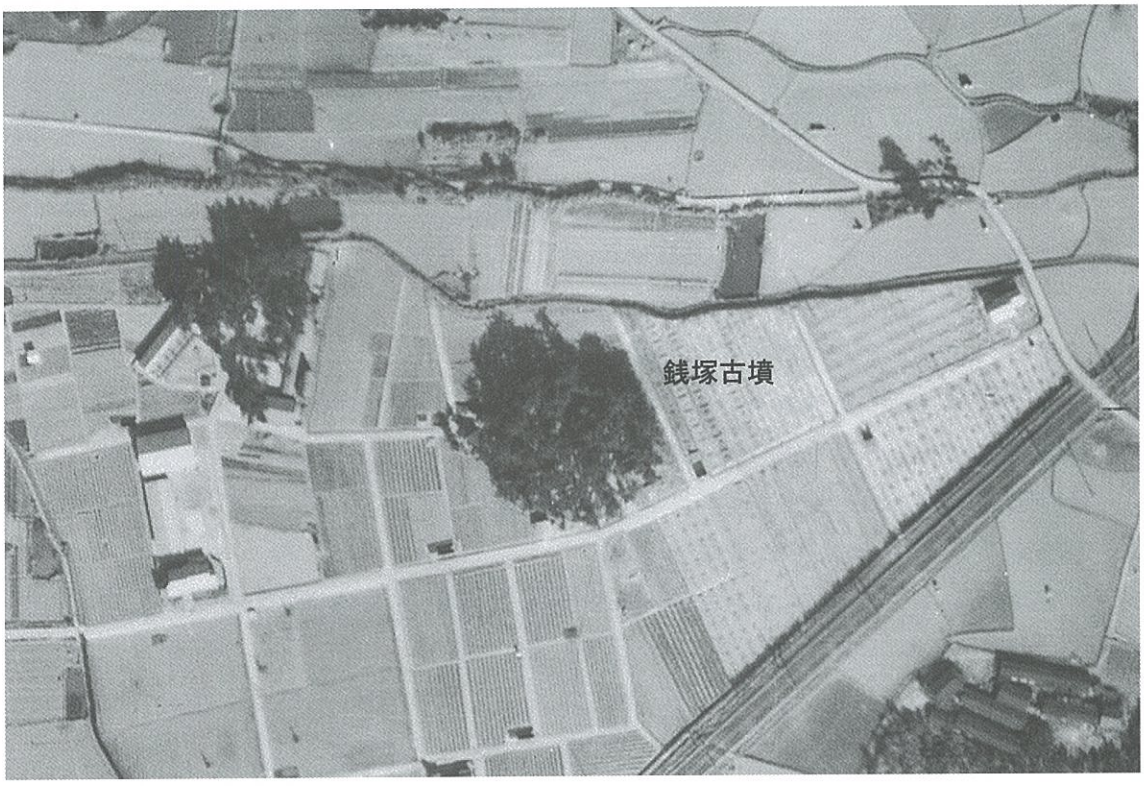
【古墳周辺の整備状況】　整備利用状況・周辺の景観や環境等

平成 19 年度の調査成果によって、復元範囲をコンクリート製の擁壁で囲み明示するとともに、説明板を設置している。墳丘上には、アベマキやナナミノキをはじめとする樹木が生育する。

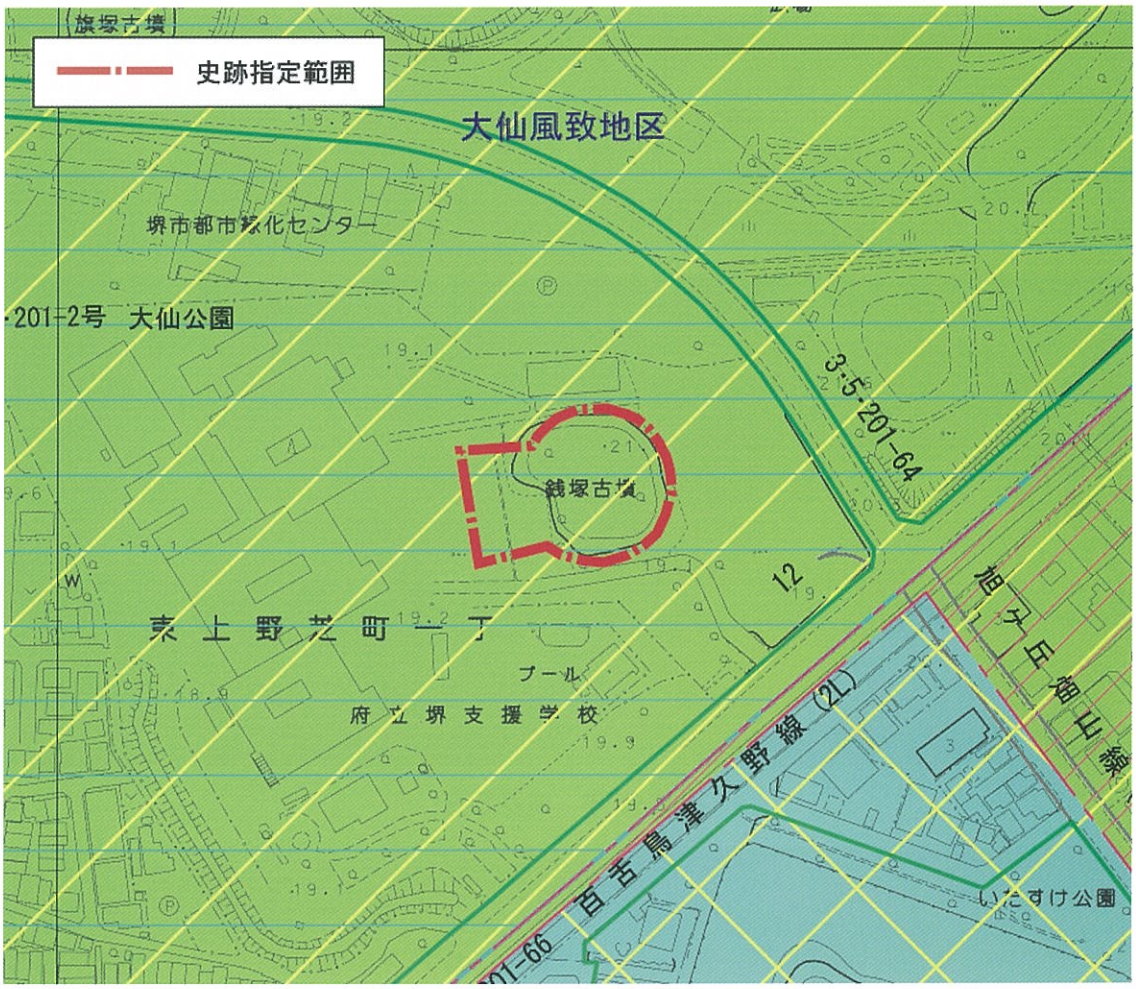
【課題】

学校の敷地内に所在するため、古墳の至近で見学することはできず、古墳の存在並びに形状が認識されにくい。

平成 19 年　航空写真

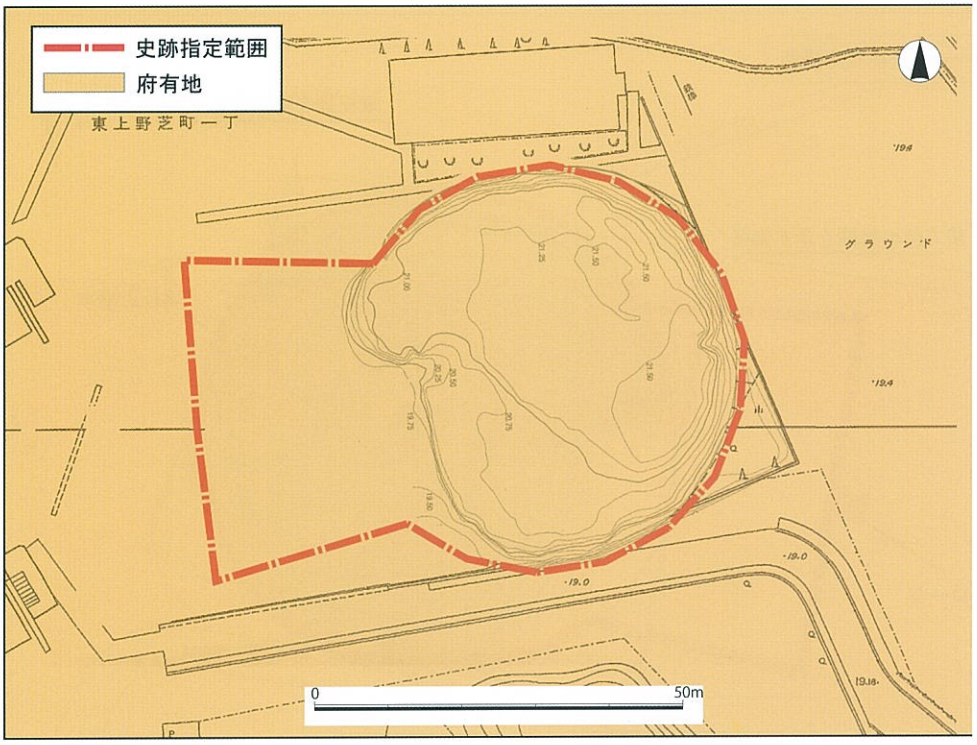


昭和 17 年　航空写真

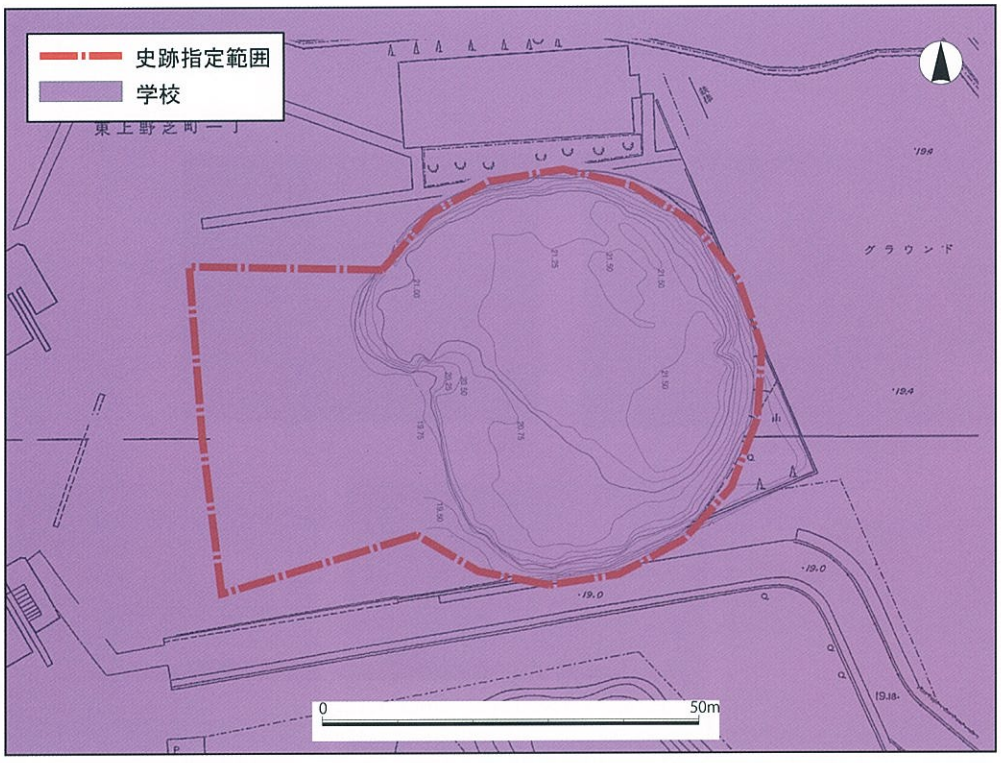


都市計画区域界		工業地域	
市街化区域・市街化調整区域界		無指定地	
道路・河川等の地形・地物による地域界（原則としてその中心）		防火地域	
道路・鉄軌道等からの後退線、その他の見通し線による地域界		準防火地域	
外壁の後退距離（１ｍ）		高度地区（第１種）	
第一種低層住居専用地域		高度地区（第２種）	
第二種低層住居専用地域		風致地区	
第一種中高層住居専用地域		生産緑地地区	
第二種中高層住居専用地域		土地区画整理事業区域（５３条区域又は７６条区域）	
第一種住居地域		都市計画道路	
第二種住居地域		都市計画公園・緑地	
近隣商業地域		その他の都市計画施設（道路・公園を除く）	

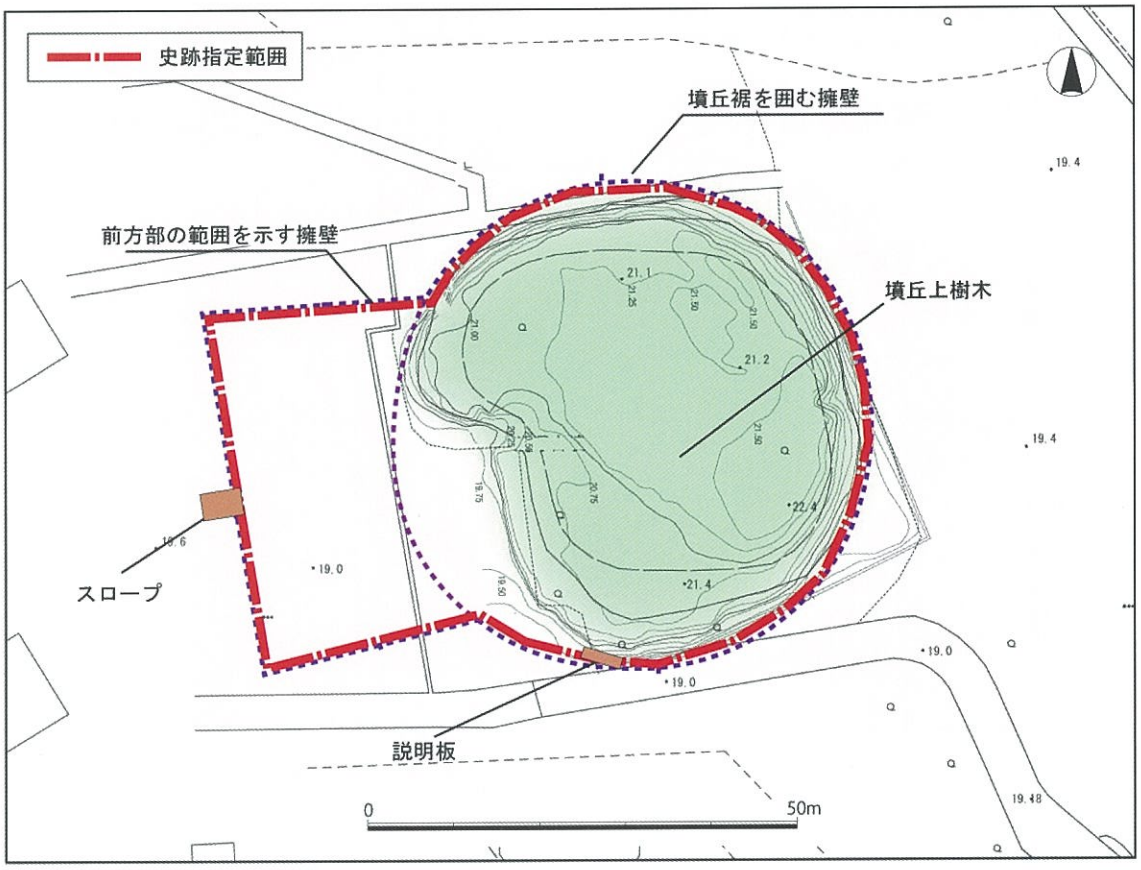
都市計画図



土地所有区分図



土地利用状況図



裾を擁壁で囲まれた後円部の墳丘

説明板

墳丘上の高木

範囲を擁壁で示した前方部

前方部端のスロープ

現状と課題

⑭グワショウ坊古墳

所在地　　：堺区百舌鳥夕雲町３丁

規模　　：長軸(東西)61m、短軸(南北)56m の円墳

築造年代　　：5 世紀後半

指定面積　　：6,049.07 ㎡

公有化面積　　：6,049.07 ㎡

調査と保存の経過　：　平成 19 年　地中レーダ探査、範囲確認調査

平成 20 年　墳丘・周濠調査

平成 26 年　史跡指定

古墳の現状　　：

【古墳の状況】　立地・規模・残存状況・管理状況

大仙公園内、旗塚古墳の東側にある長軸（東西）61m、短軸（南北）56m、現況高 3.5mの卵形の円墳で、墳丘は 2 段築成と考えられる。周囲には濠が巡り、葺石と埴輪が検出されているが、埋葬施設の構造や副葬品は不明である。昭和 50 年代の公園造成時には、既に墳丘上部は削平され平らであった。現状は、公園整備がなされ公園の一部となっている。

円墳で径約 61mという大きさは、仁徳天皇陵古墳（大山古墳）に接する径 62mの大安寺山古墳に次ぐ大きさで、全国でも有数である。同古墳の西側には旗塚古墳が位置し、更に、谷を挟んで北東側には、かつて鳶塚古墳、原山古墳が存在していた。

発掘調査では、西側が張り出した卵形を呈する墳形であること、濠から外側における削平が顕著であるものの、古墳の濠埋土は比較的良好に残存する可能性が高いこと、墳丘には、天地返しとも呼ばれる鱗状層序（うろこじょうそうじょ）による盛土を採用していることが判明した。更に、盛土の土壌分析により古墳築造前は周辺に水田耕作地が存在する可能性があること、盛土は採土前に火入れを行うなどの準備がなされていたことが判明した。遺物は原位置を留めない円筒埴輪、形象埴輪、須恵器、ミニチュア鉄鏃が出土した。これらの出土遺物から 5 世紀後半の築造と考えられる。

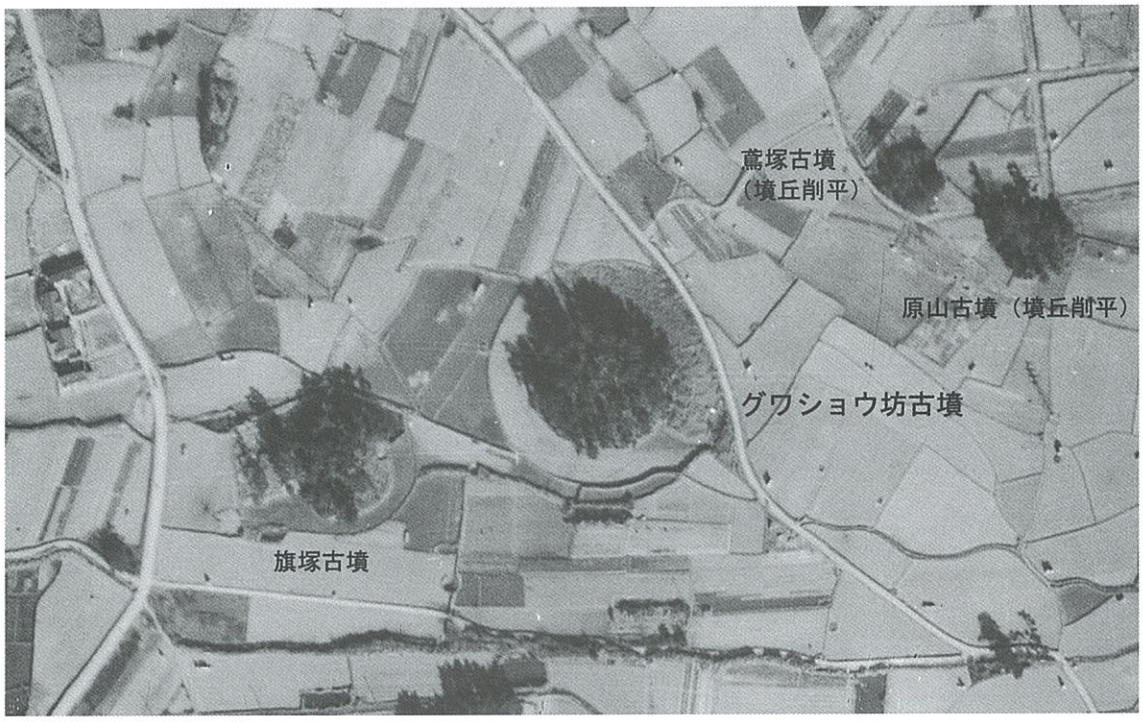
【古墳周辺の整備状況】　整備利用状況・周辺の景観や環境等

古墳は大仙公園内に位置し、開発等に伴う破損や滅失の危険はない。一帯は昭和 44 年頃に公有化され、公園の一部として保存され、本墳を含む七観音古墳・旗塚古墳一帯の約 10ha は都市緑化植物園とし樹林の編成を見る森林推移実験見本園、水生・湿生植物園として修景されている。濠の周囲には園路が巡り、史跡の東端にはパーゴラが設置されている。墳丘上はシャシャンボやアラカシが自生するほか、発掘調査範囲にはササの群落がみられる。

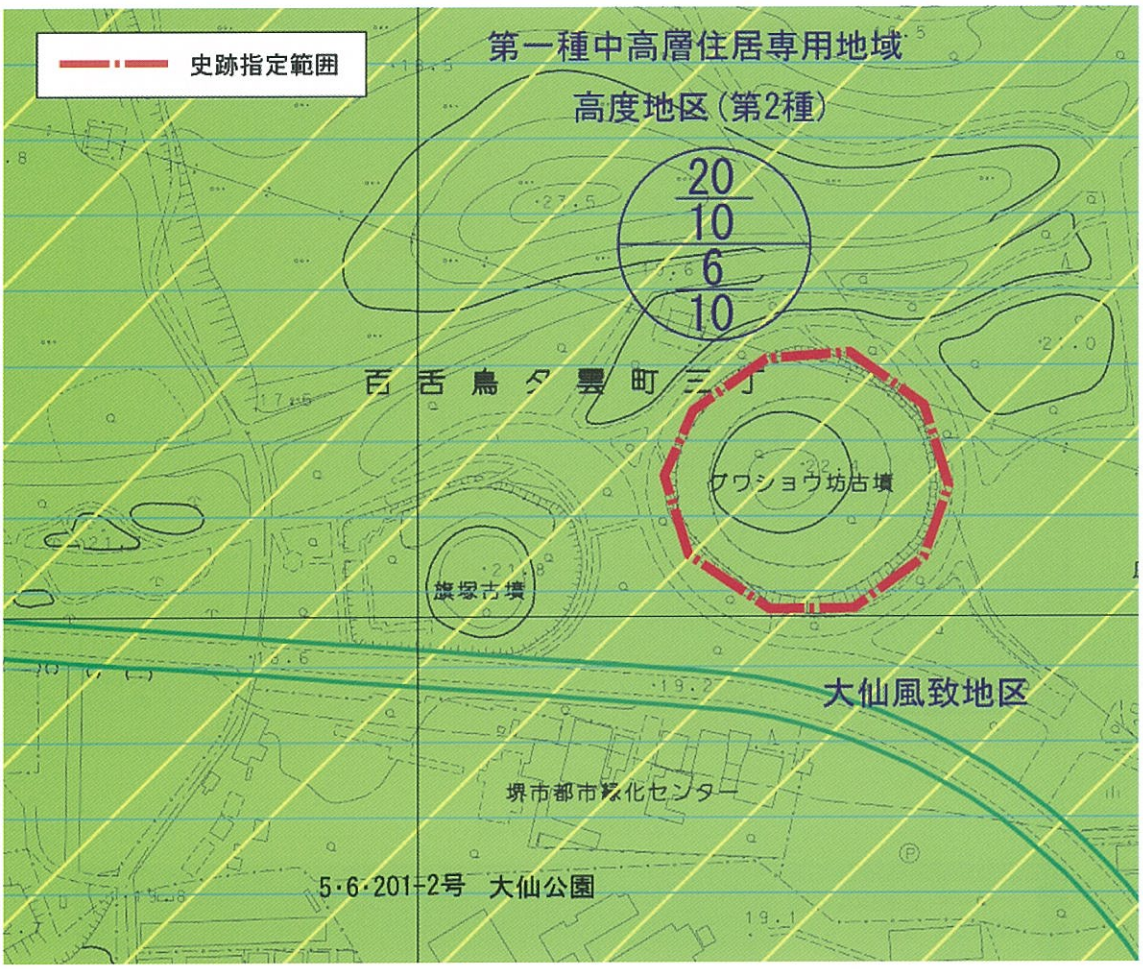
【課題】

都市公園としての整備が先行しているため、本来の史跡復元整備と、それを踏まえた適切な保存措置ができておらず、墳丘は森林推移実験見本園として、樹木が密生している。また、周濠の東側にパーゴラが位置しており、古墳整備に際しては移転が必要である。今後、墳丘の保護や活用に際して関係部局との連携が不可欠である。

平成 19 年　航空写真

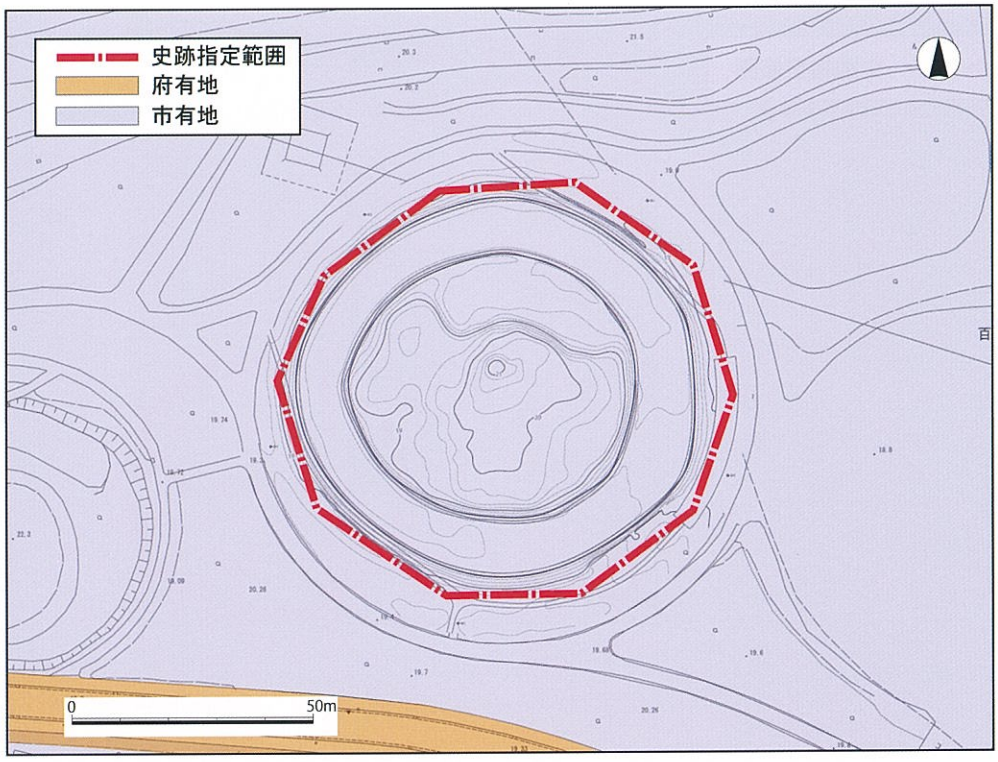


昭和 17 年　航空写真

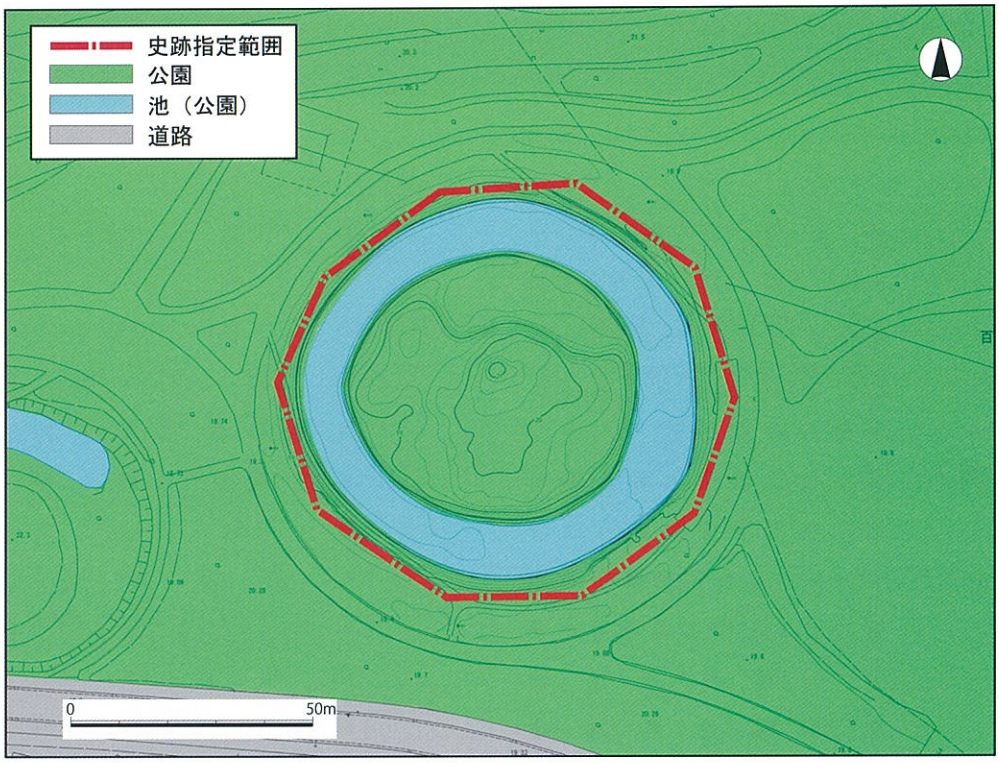


都市計画区域界		工業地域	
市街化区域・市街化調整区域界		無指定地	
道路・河川等の地形・地物による地域界（原則としてその中心）		防火地域	
道路・鉄軌道等からの後退線、その他の見通し線による地域界		準防火地域	
外壁の後退距離（1m）		高度地区（第1種）	
第一種低層住居専用地域		高度地区（第2種）	
第二種低層住居専用地域		風致地区	
第一種中高層住居専用地域		生産緑地地区	
第二種中高層住居専用地域		土地区画整理事業区域（53条区域又は76条区域）	
第一種住居地域		都市計画道路	
第二種住居地域		都市計画公園・緑地	
近隣商業地域		その他の都市計画施設（道路・公園を除く）	

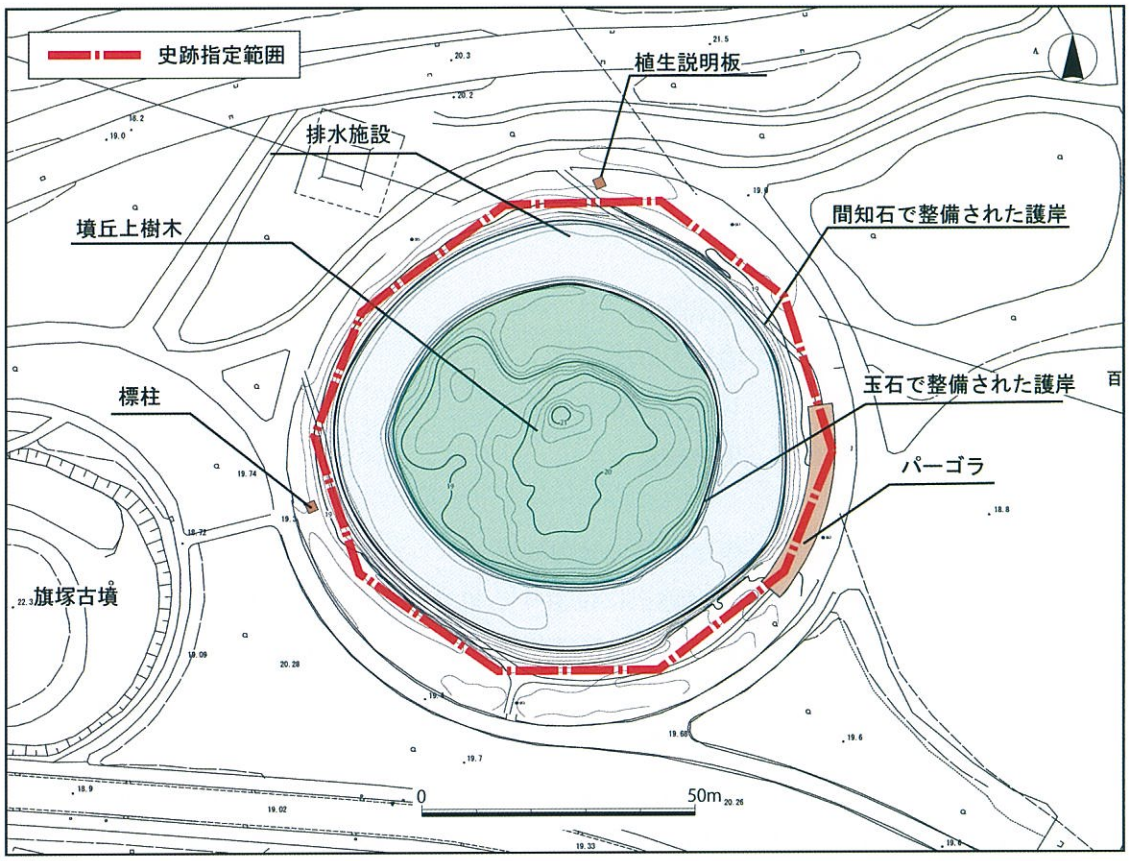
都市計画図



土地所有区分図



土地利用状況図



標柱

墳丘上の樹木

植生説明板

間知石で整備された護岸

排水施設

パーゴラ

現状と課題

⑮旗塚古墳

所在地　　：堺区百舌鳥夕雲町３丁

規模　　：墳丘長 57.9m の前方後円墳

築造年代　　：５世紀中頃

指定面積　　：3,759.14 ㎡

公有化面積　　：3,759.14 ㎡

調査と保存の経過　：平成 19 年　確認調査
平成 20 年　墳丘・周濠調査
平成 21 年　レーダ探査
平成 26 年　史跡指定

古墳の現状：

【古墳の状況】　立地・規模・残存状況・管理状況

百舌鳥古墳群の中央部、信太山台地上に位置する帆立貝形前方後円墳である。墳丘は 2 段築成で、墳丘長 57.9m、現況高 3.7m、後円部径 41.5m、前方部長 24.7mの規模を有する。くびれ部後円部寄りで約 12.5mの幅で外方へ 3m張り出す造り出しをもつ。濠は、盾形に巡り周囲に葺石と埴輪列を備えた幅 3.4mの堤が存在する可能性が高い。埋葬施設の構造や副葬品の内容は不明であるが、円筒埴輪と石見型埴輪から、5 世紀中頃の築造である。同古墳の西側にはグワショウ坊古墳が位置し、更に、谷を挟んで北東側には、かつて鳶塚古墳、原山古墳が存在していた。

墳丘上には樹木が密生し、墳形を確認することはできない。大仙公園都市緑化植物園として位置づけられ、植物の自然の生態系を観察する森林推移実験見本園として修景されている。

【古墳周辺の整備状況】　整備利用状況・周辺の景観や環境等

大仙公園として公有化され、公園の一部として周囲を盛土で造成し、墳丘裾を玉石により墳丘整備し、墳丘は保存されている。植物観察を主体とする説明板が設置されている。周囲は盾形周濠に合わせた園路が巡っている。復元された北側の周濠の水のコントロールを目的に導水・取水施設を有する。

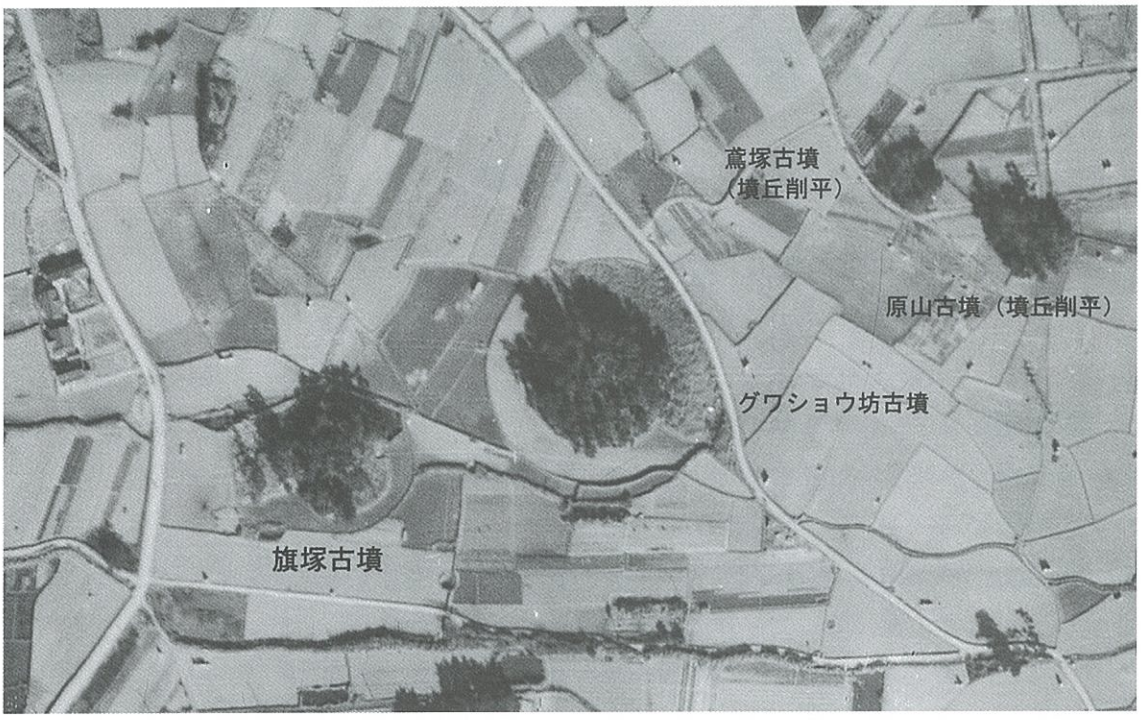
墳丘はアラカシやアベマキなどの樹木が生育する。

【課題】

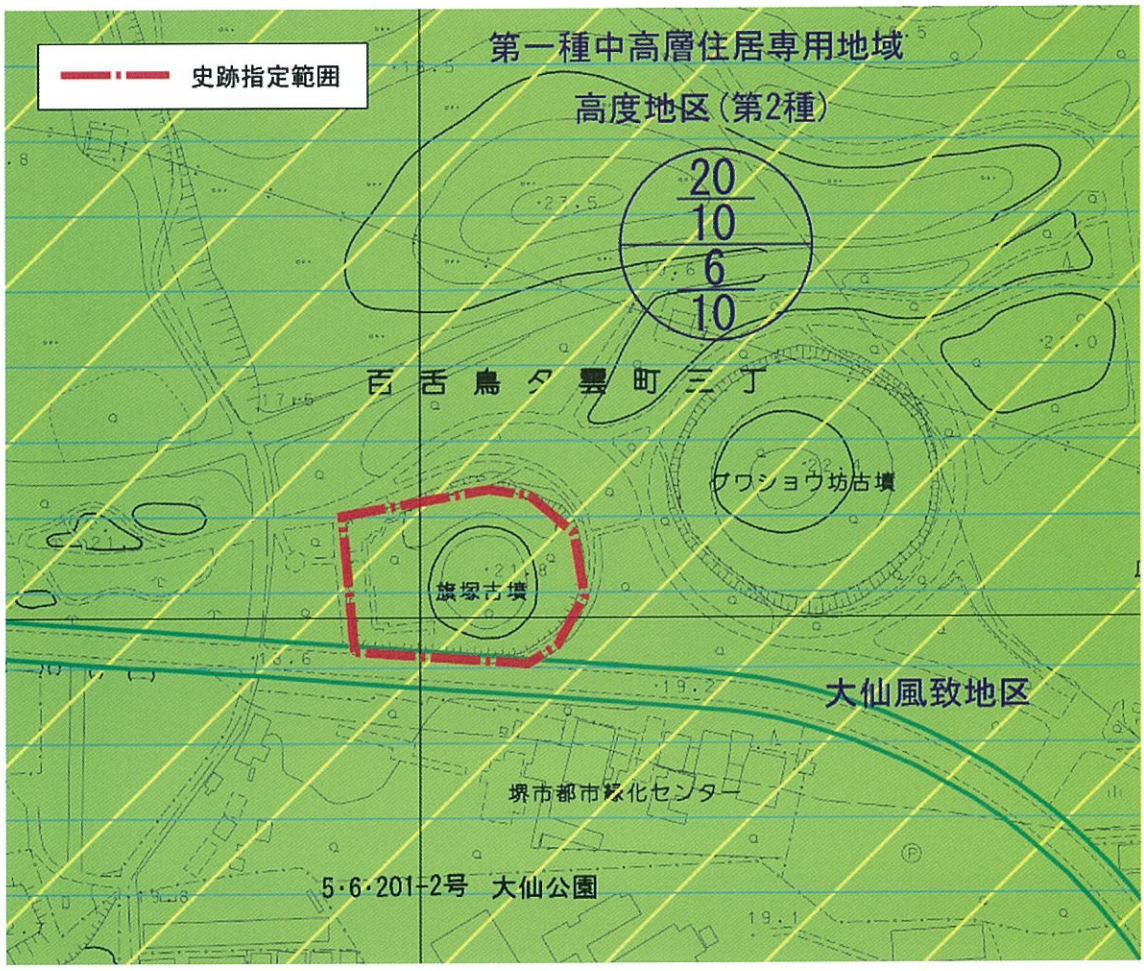
整備時に配置された八つ橋の基礎の飛石状のコンクリートブロックや導水施設、墳丘裾の石積などが存在するが、古墳本来の遺構の位置や形状、仕様とは異なっている。

周囲の盛土により、古墳築造時の景観とかけはなれている。

平成 19 年　航空写真

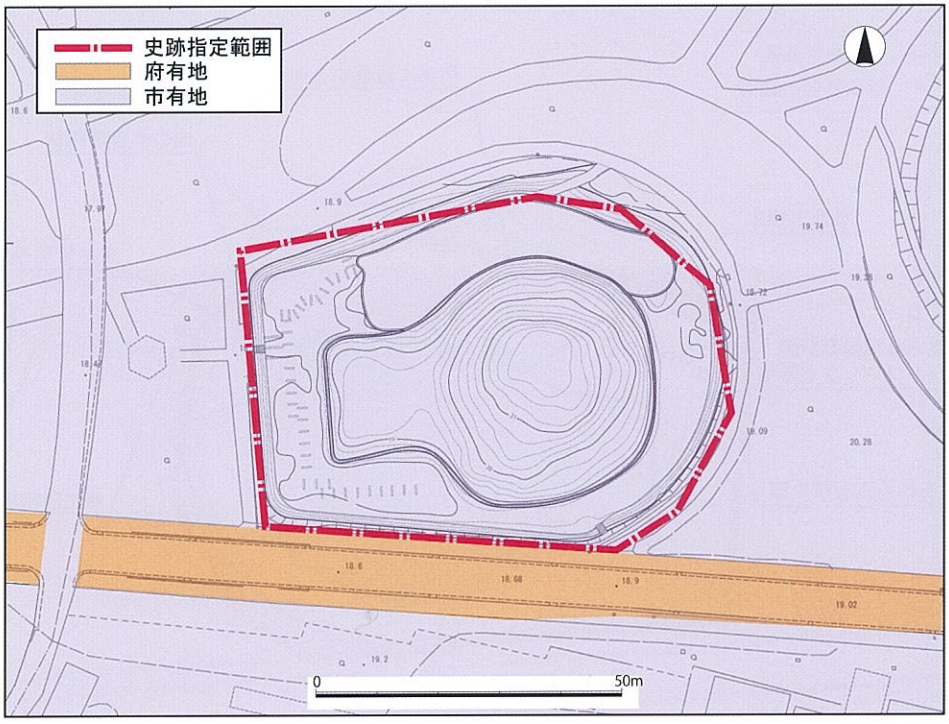


昭和 17 年　航空写真

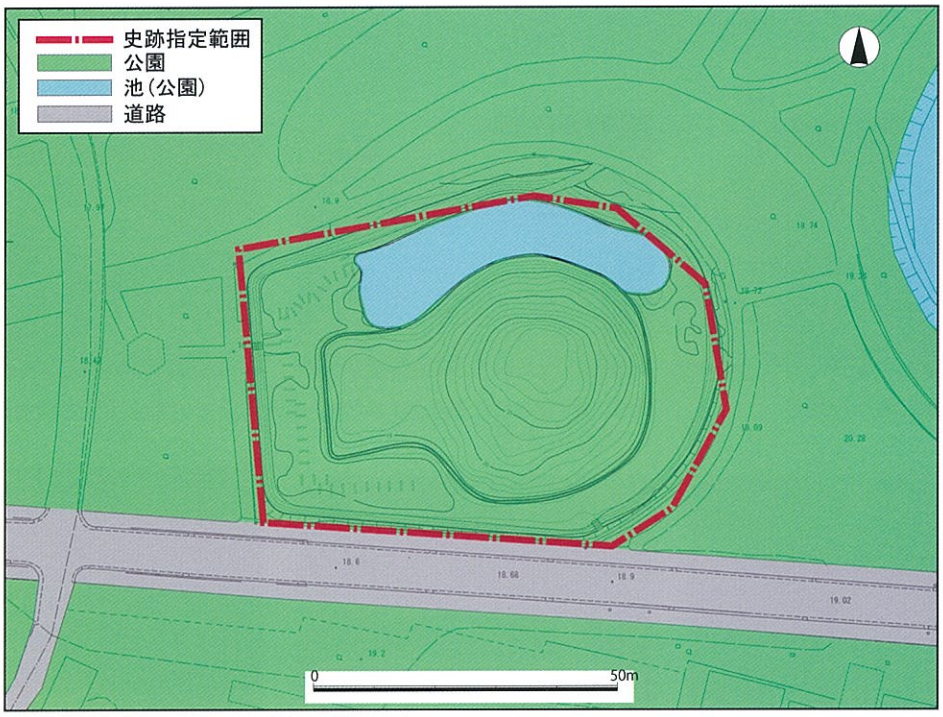


------	都市計画区域界		工業地域
———	市街化区域・市街化調整区域界		無指定地
—-—-	道路・河川等の地形・地物による地域界（原則としてその中心）		防火地域
—+—	道路・鉄軌道等からの後退線、その他の見通し線による地域界		準防火地域
- - - - - -	外壁の後退距離（1m）		高度地区（第1種）
	第一種低層住居専用地域		高度地区（第2種）
	第二種低層住居専用地域		風致地区
	第一種中高層住居専用地域		生産緑地地区
	第二種中高層住居専用地域		土地区画整理事業区域（53条区域又は76条区域）
	第一種住居地域		都市計画道路
	第二種住居地域		都市計画公園・緑地
	近隣商業地域		その他の都市計画施設（道路・公園を除く）

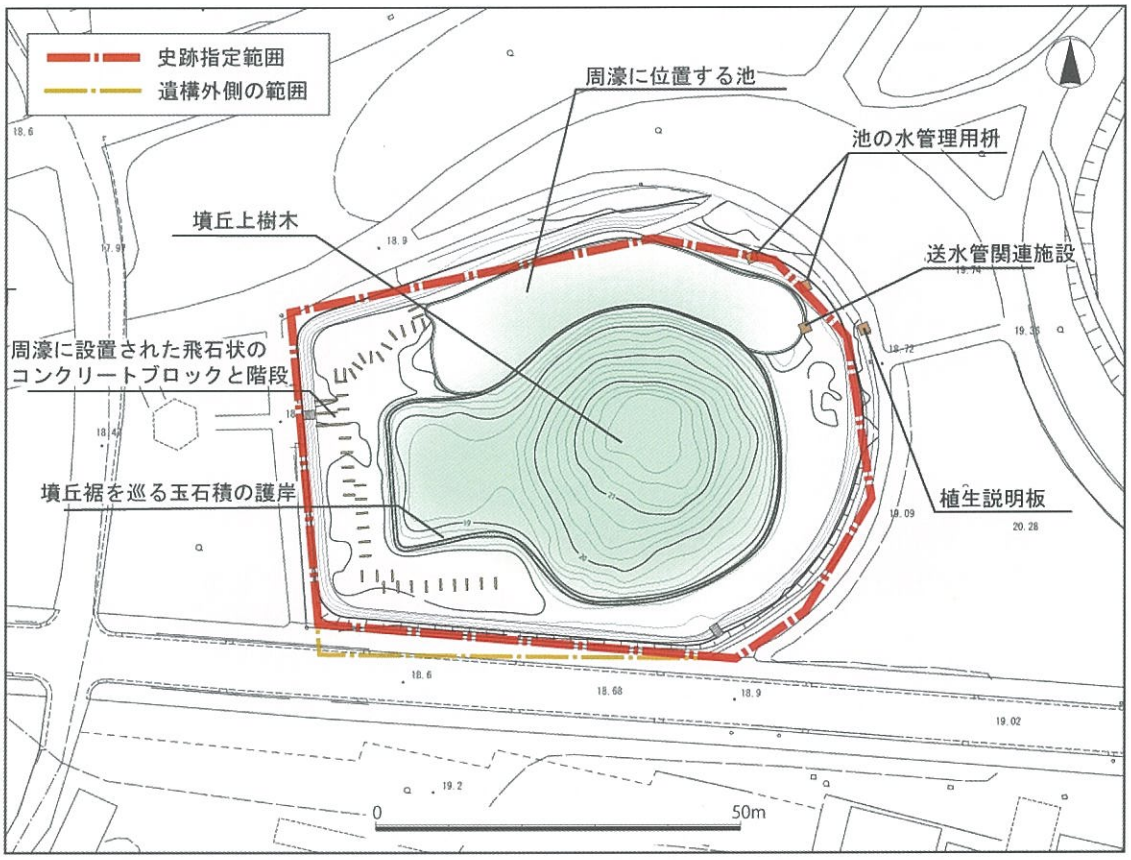
都市計画図



土地所有区分図



土地利用状況図



墳丘上樹木と墳丘裾護岸

周濠に設置された飛石状コンクリートブロックと階段

周濠に位置する池と排水施設

周濠の水管理のために設置された枡

送水管に関連する施設

植生説明板

現状と課題

⑯寺山南山古墳

所　在　地規　：西区上野芝町１丁

模　　：一辺 44.8m の方墳

築造年代　　：５世紀初頭

指定面積　　：4,154.75 ㎡

公有化面積　　：4,154.75 ㎡

調査と保存の経過　：平成７年　公有化

平成 11 年　周濠調査

平成 12 年　墳丘調査

平成 20 年　墳丘調査

平成 22 年　レーダ探査

平成 23 年　墳丘・周濠調査

平成 26 年　史跡指定

古墳の現状

【古墳の状況】　立地・規模・残存状況・管理状況

百舌鳥古墳群の中央部、履中天皇陵古墳（ミサンザイ古墳）の後円部側外周にあり、同古墳に付随する古墳と考えられる。墳丘は二段築成の方墳で、現況高は 3.0m である。発掘調査により、墳丘は長辺 44.8m、短辺 36.3m の長方形の方墳であることが判明している。築造時期はわが国で最古段階の須恵器が出土していることから、５世紀初頭頃と推測できる。南西側の濠は履中天皇陵古墳（ミサンザイ古墳）の外周溝（がいしゅうこう）と共有していた可能性が高い。七観音古墳やかつて存在していた七観山古墳とともに履中天皇陵古墳（ミサンザイ古墳）に付随する古墳と考えられる。墳丘は天地返しによる鱗状層序からなる盛土をなし、葺石とその基底石（きていせき）を検出している。

昭和 36 年頃に墳丘上に住宅が建設された際に、比高差４m以上は残存していた墳丘は削平を受け、約半分の墳丘高になった。現在、当古墳を含めた周囲は、公有化され大仙公園予定地として保存されている。古墳の周囲には一部ネットフェンスが設置されている。また、古墳の南西側はフェンスに沿って植栽がある。

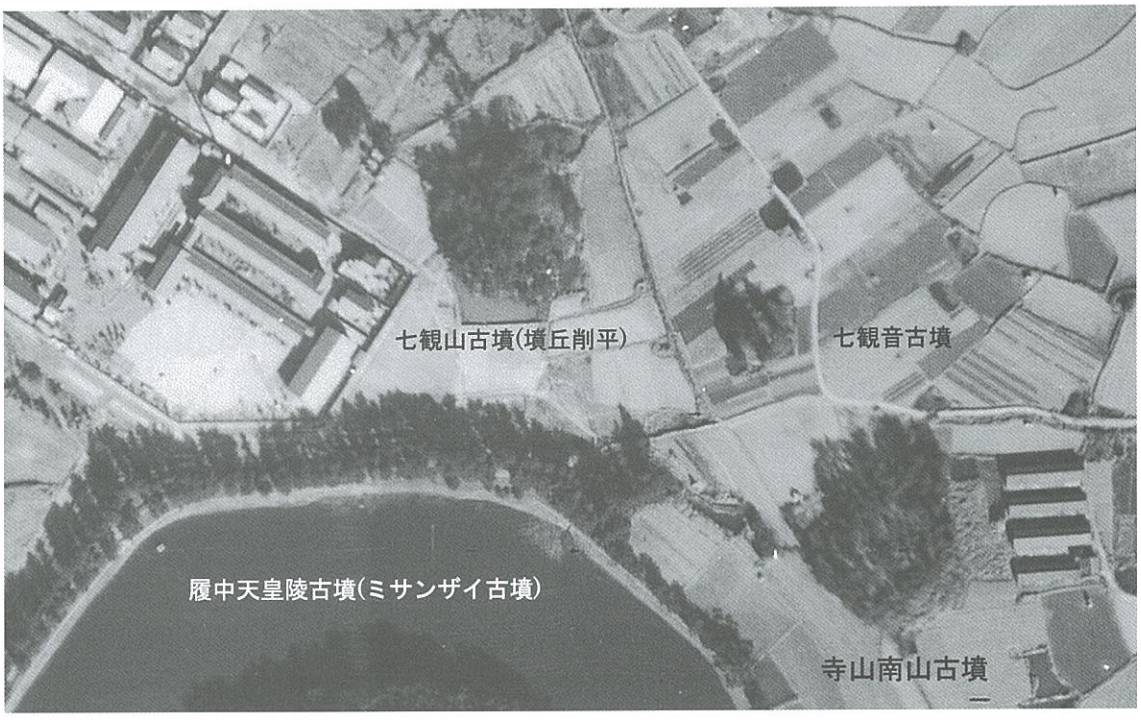
【古墳周辺の整備状況】　整備利用状況・周辺の景観や環境等

墳丘上は樹木が茂るが、その大半はアカメガシワを中心とした落葉樹である。

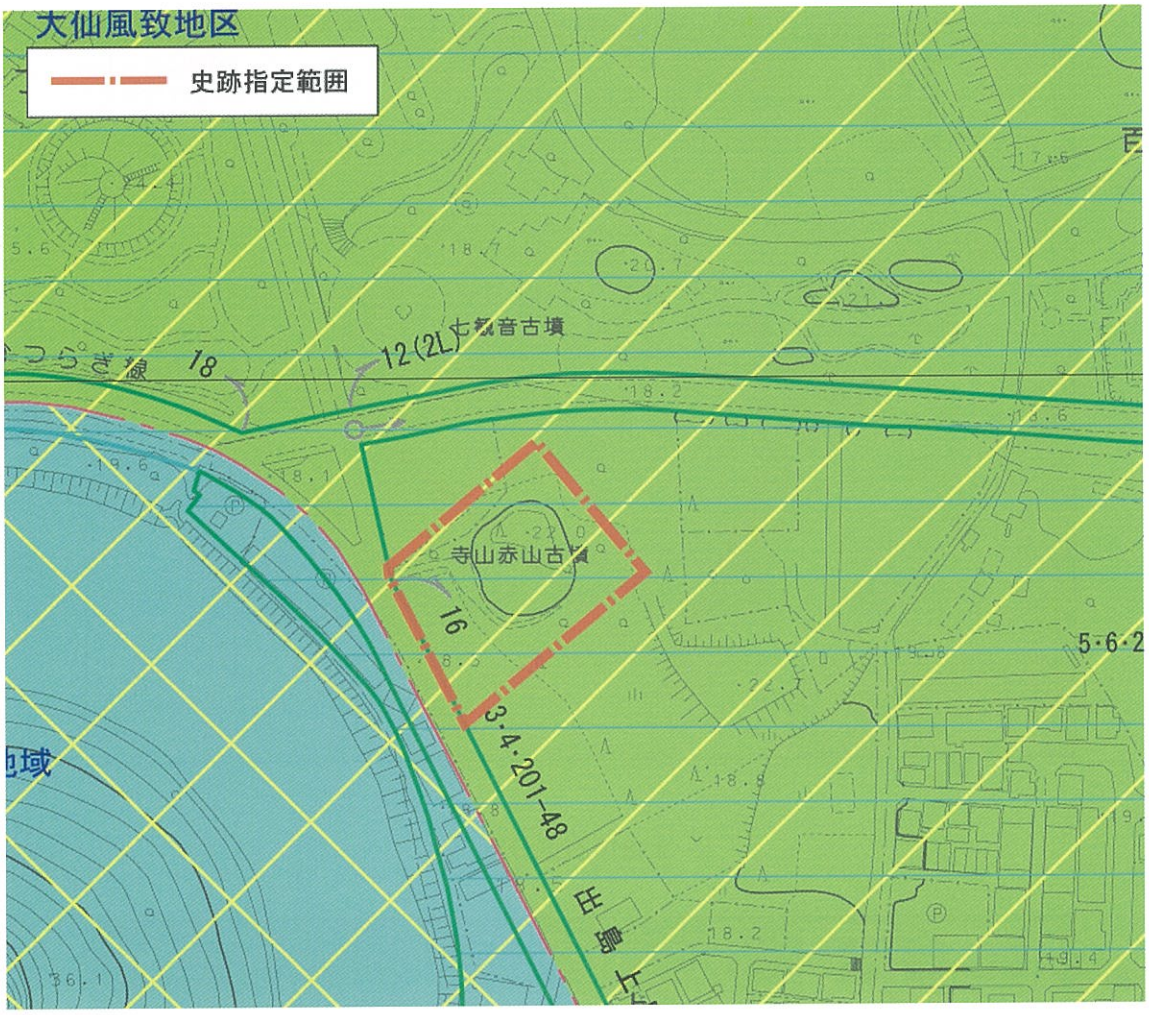
【課題】

墳丘上に所在した住宅により削平された墳頂部の復元が困難である。また、古墳の周囲に残された公園残土や、樹木の繁茂により古墳としての認識が困難である。更に、古墳の説明板がなく見学者が古墳を認識することが困難であり、見学に必要な施設の整備が必要である。

平成 19 年　航空写真

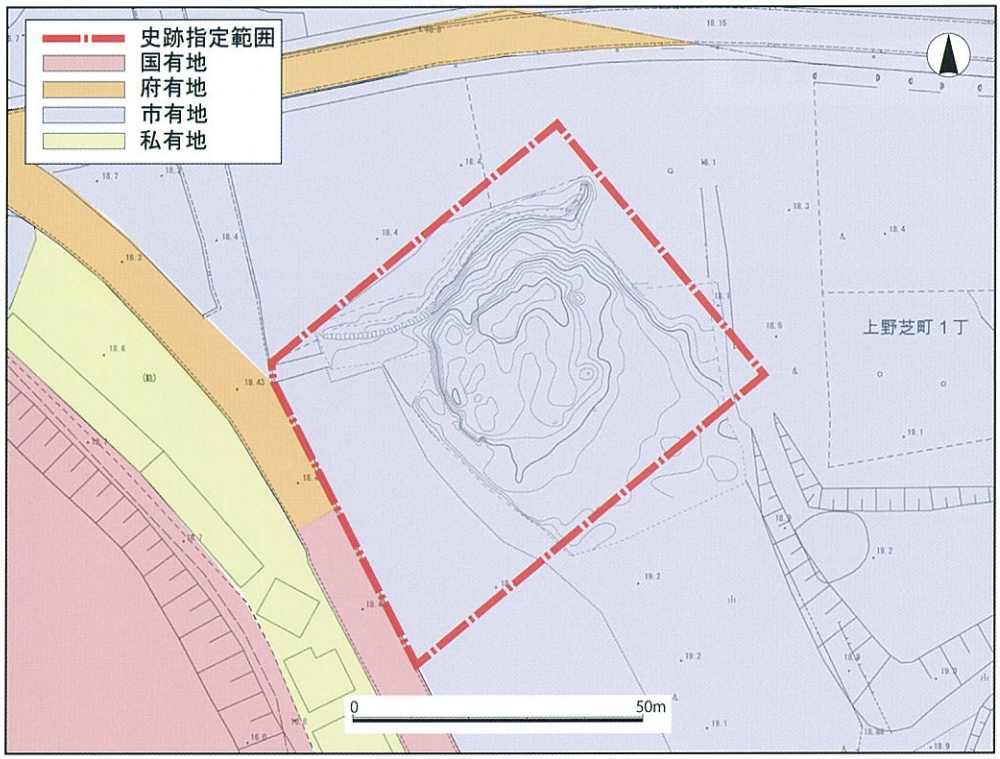


昭和 17 年　航空写真

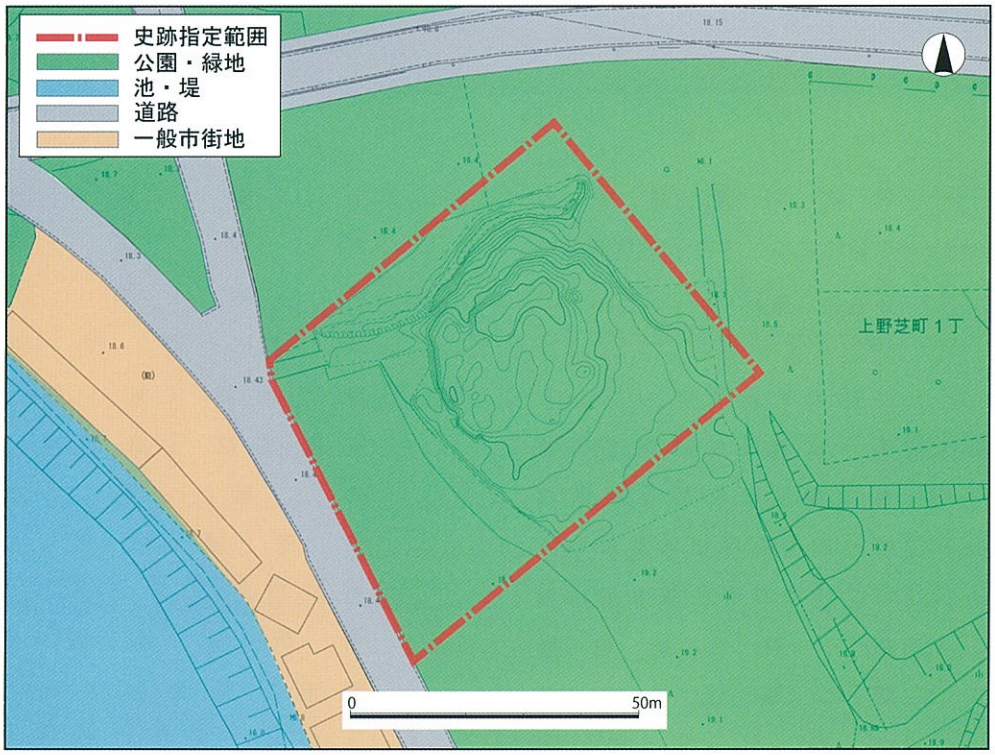


都市計画区域界		工業地域	
市街化区域・市街化調整区域界		無指定地	
道路・河川等の地形・地物による地域界（原則としてその中心）		防火地域	
道路・鉄軌道等からの後退線、その他の見通し線による地域界		準防火地域	
外壁の後退距離（１ｍ）		高度地区（第１種）	
第一種低層住居専用地域		高度地区（第２種）	
第二種低層住居専用地域		風致地区	
第一種中高層住居専用地域		生産緑地地区	
第二種中高層住居専用地域		土地区画整理事業区域（５３条区域又は７６条区域）	
第一種住居地域		都市計画道路	
第二種住居地域		都市計画公園・緑地	
近隣商業地域		その他の都市計画施設（道路・公園を除く）	

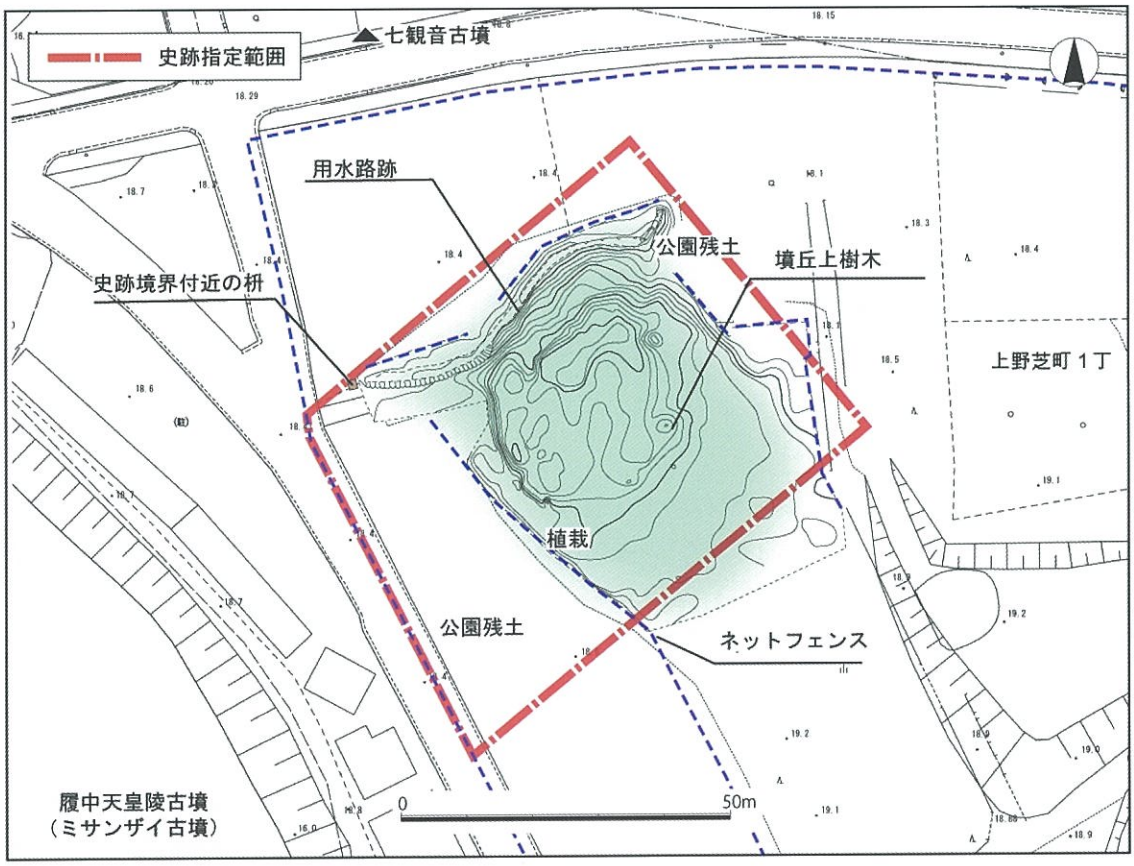
都市計画図



土地所有区分図



土地利用状況図



墳丘上樹木とネットフェンス

墳丘裾の用水路跡

古墳としての認識が困難

史跡境界付近の枡

寺山南山古墳から見た
履中天皇陵古墳（ミサンザイ古墳）

現状と課題

⑰七観音古墳

所在地	：堺区旭ヶ丘北町５丁
規模	：直径 32.5mの円墳
築造年代	：５世紀前半
指定面積	：879.46 ㎡
公有化面積	：879.46 ㎡
調査と保存の経過	：昭和 58 年　墳丘調査 平成 26 年　史跡指定

古墳の現状：

【古墳の状況】　立地・規模・残存状況・管理状況

履中天皇陵古墳（ミサンザイ古墳）の外周にあり、同古墳に付随する現況高 3.0mの円墳と考えられる。履中天皇陵古墳（ミサンザイ古墳）の北側、大仙公園の南入口にあり、墳丘裾に鉢巻状の土留めが巡っているが、本来の古墳の形状とは異なる。寺山南山古墳や、かつて存在していた七観山古墳とともに履中天皇陵古墳（ミサンザイ古墳）に付随する古墳と考えられる。埋葬施設は、未調査のため不明であるが、碧玉製の琴柱形石製品が出土したといわれている。公園整備に伴う測量及び発掘調査では、墳丘盛土と墳丘裾の可能性のある地山の立ち上がりを確認し、直径 32.5mの円墳に復元できる。濠の明瞭な肩や堆積層は検出されていないことから、古墳築造当初から明瞭な濠は設けられなかった可能性がある。

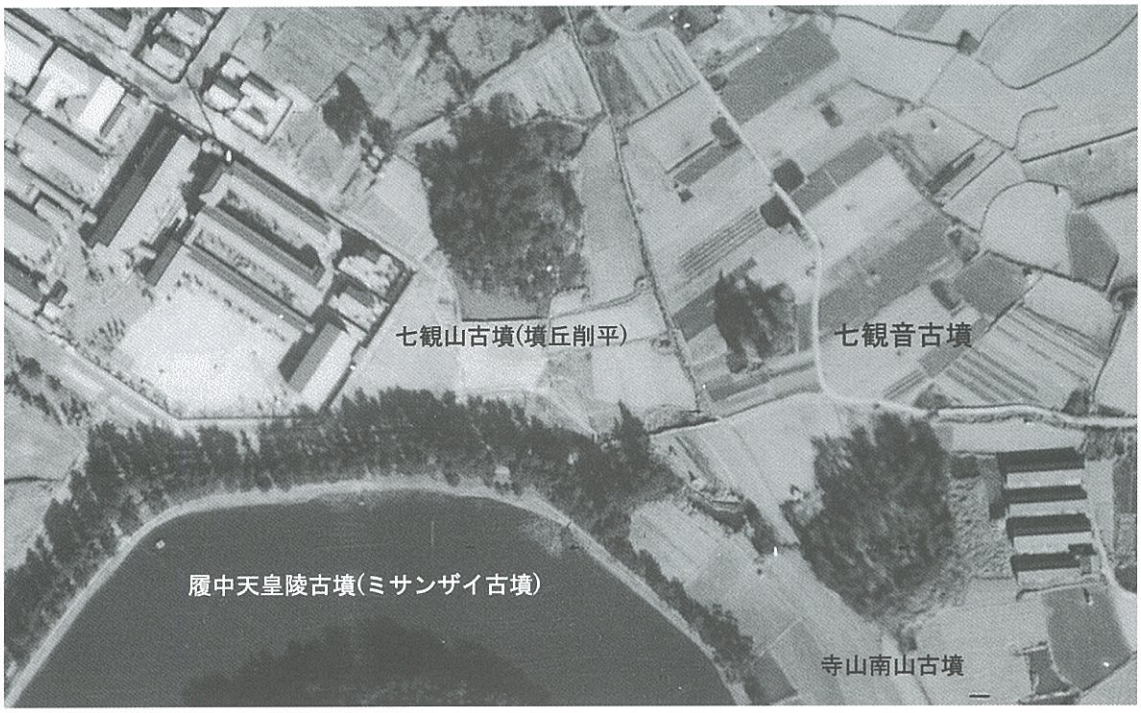
【古墳周辺の整備状況】　整備利用状況・周辺の景観や環境等

大仙公園として昭和 50 年度に公有化され、公園の一部として保存されている。墳丘は、一面につつじが植栽されている。近年、ササ類が目立ち、標柱を覆い隠している。

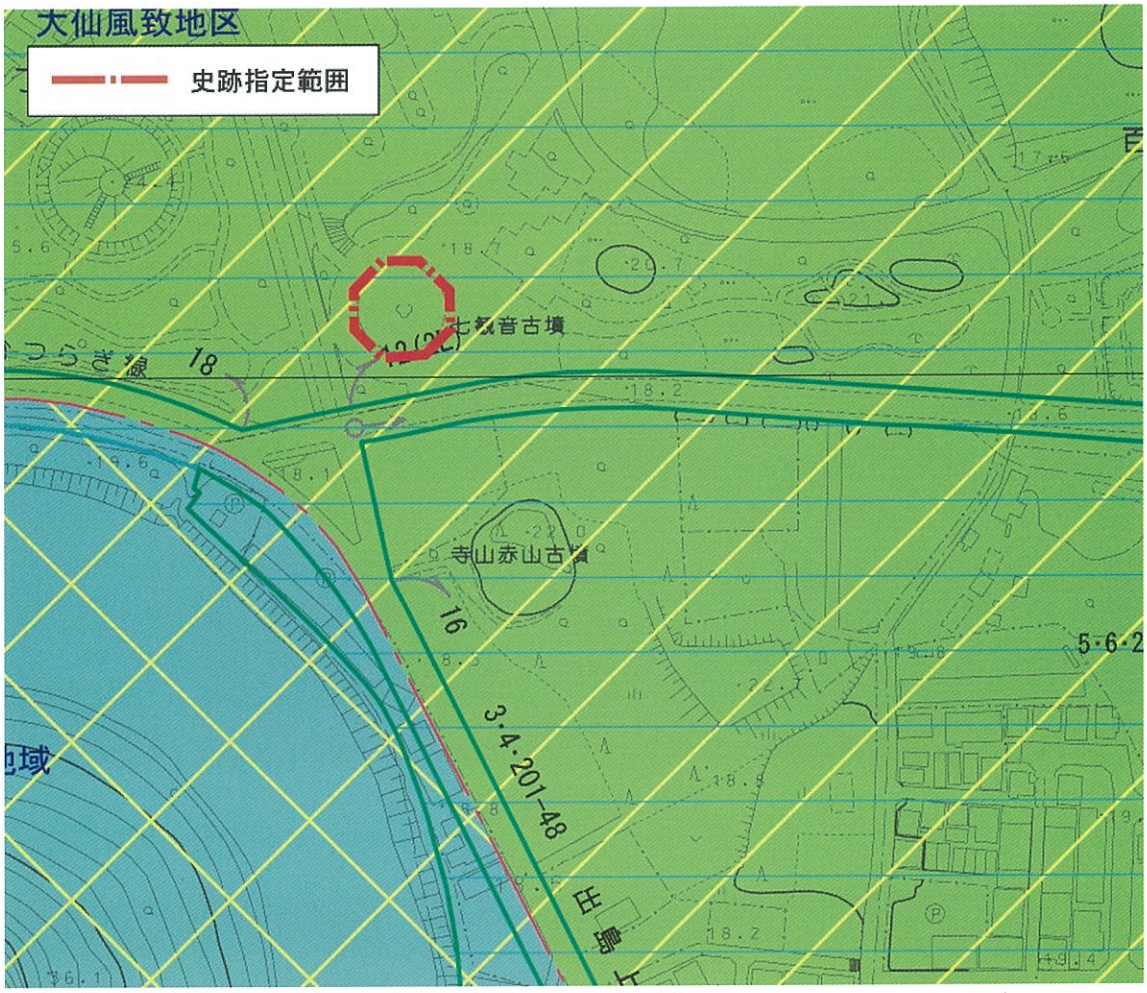
【課題】

墳丘裾の土留石積や外側の縁石・皿型側溝と、墳丘の規模との相関関係がわかりにくい。説明板の板面はさび色が目立ち老朽化が著しい。

平成 19 年　航空写真

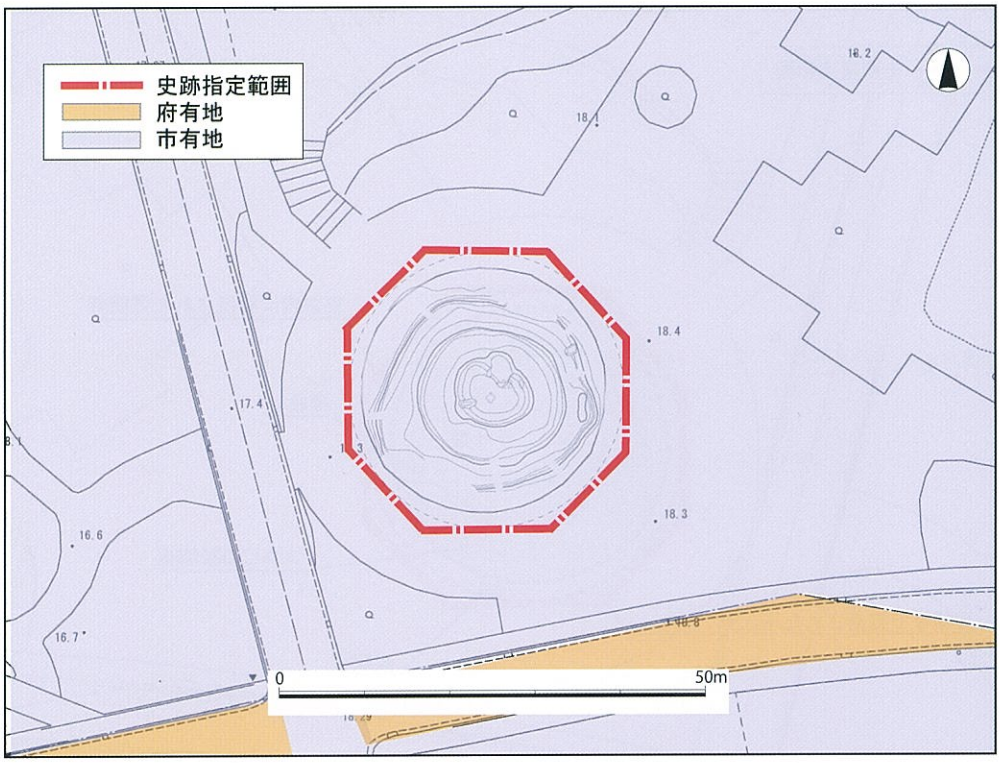


昭和 17 年　航空写真

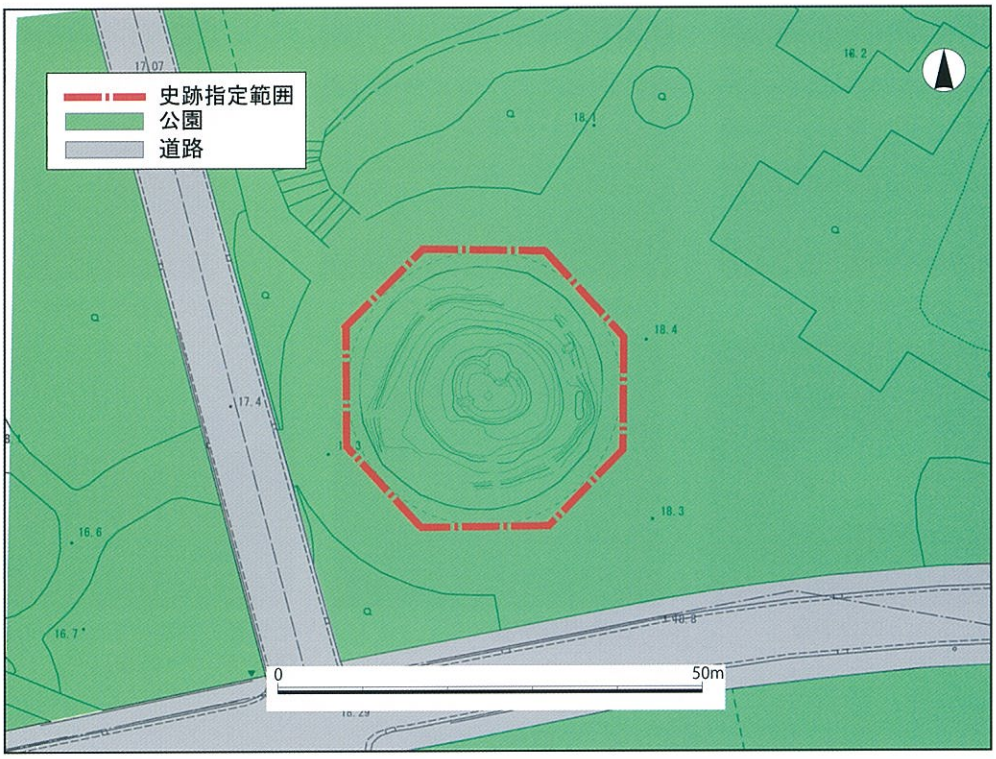


都市計画区域界		工業地域	
市街化区域・市街化調整区域界		無指定地	
道路・河川等の地形・地物による地域界（原則としてその中心）		防火地域	
道路・鉄軌道等からの後退線、その他の見通し線による地域界		準防火地域	
外壁の後退距離（１ｍ）		高度地区（第１種）	
第一種低層住居専用地域		高度地区（第２種）	
第二種低層住居専用地域		風致地区	
第一種中高層住居専用地域		生産緑地地区	
第二種中高層住居専用地域		土地区画整理事業区域（５３条区域又は７６条区域）	
第一種住居地域		都市計画道路	
第二種住居地域		都市計画公園・緑地	
近隣商業地域		その他の都市計画施設（道路・公園を除く）	

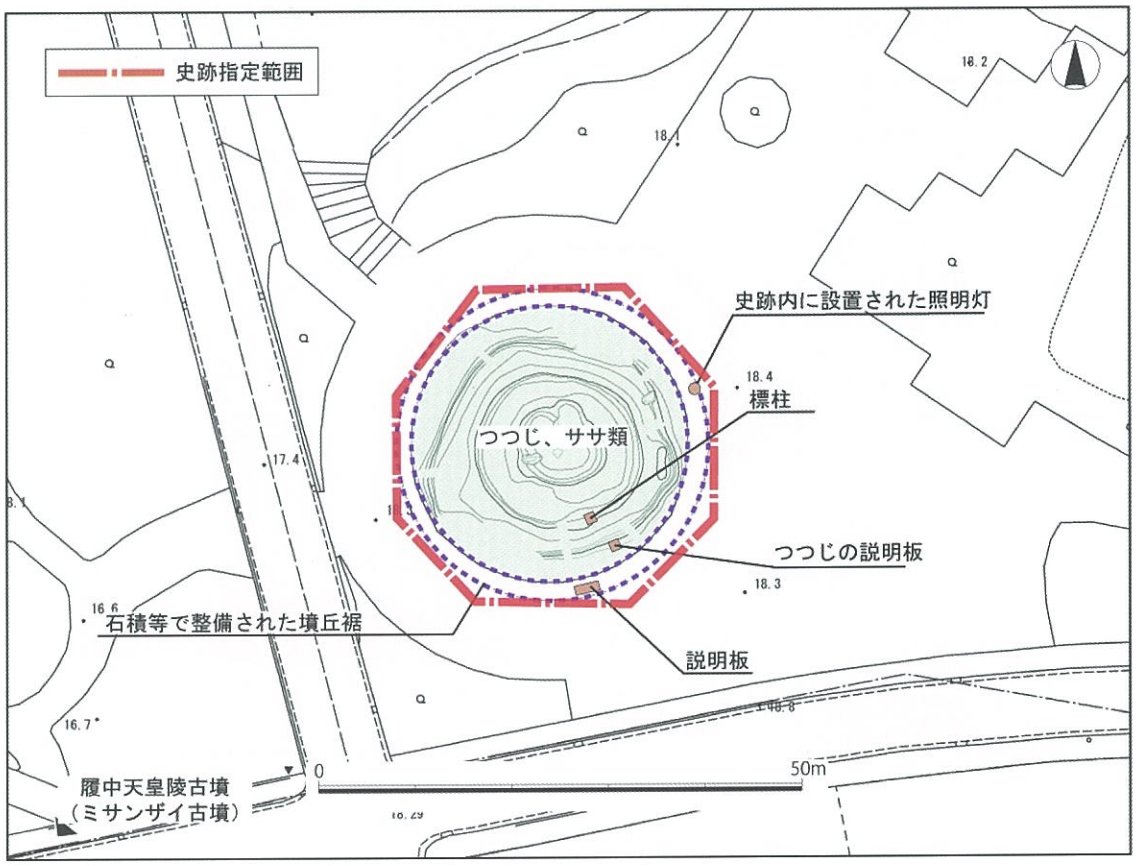
都市計画図



土地所有区分図



土地利用状況図



石積などで整備された墳丘裾

史跡内に設置された照明灯

ササ類に埋もれた標柱

植栽（つつじ）の説明板

古墳の説明板

七観音古墳から見た履中天皇陵古墳(ミサンザイ古墳)

現状と課題